【裁量トレード徹底検証マニュアル】

確実に成長し、勝つための技術が向上する具体的な検証方法

～ 最短で”勝ち組”になるための具体的な”検証”のやり方と順序 ～

-目次-

はじめに

chapter 1 ,　【検証を正しく、且つ効率的に行うための重要な目的設定】

chapter 2 ,　【「手法が機能する相場のみでトレードする」というトレードの仕方で勝ちを目指していく場合の具体的の検証の仕方、考え方】

2 － 1 ,　『トレードの仕方の大前提となる考え方と、達成すべき目的』

2 － 2 ,　『具体的な検証の仕方、データを取ることの重要性』

chapter 3 ,　【「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」というトレードの仕方で、勝ちを目指していく場合の具体的の検証の仕方、考え方】

3 － 1 ,　『トレードの仕方の大前提となる考え方と、達成すべき目的』

3 － 2 ,　『具体的な検証の仕方、相場への理解度をとにかく深めていく』

3 － 3 ,　『相場の動きを”パターン化"させ、それをインプットしていく』

3 － 4 ,　『”勝ちパターン”をリアルトレードでしっかり使いこなせる状態に持っていく』

さいごに

はじめに

どーも、福沢です。

さて、今回は特に「今現在まだ勝てていない」という方には
是非ともしっかり読んでいただきたいものになります。

そう、タイトルにもある通りですが今回は"**検証**"についてです。

ブログの方でも、過去にちょくちょく言ってきているのですが
「FXでしっかり安定して勝てるようになる」ためには
言わずもがな、"検証"という作業が必須になります。

FXの世界に足を踏み入れて、ある程度の期間と少しの経験があれば分かるのですが
基本的にFXの世界には（投資、投機の世界全てにも言えますが）
「この手法を使えば、明日からすぐに勝てるようになる」
「こういったトレードの仕方をすれば、それだけで勝ち組に入れる」
というような類いのものは、どこを探しても一切存在しません。

もし仮に、そういったものがあったとしても
一個人が簡単に手に入れられるようなものでも
ネットで調べればすぐに出てくるようなものでもありません。

なので、個人がFXで勝てるようになるためには
理論や知識を学習するのと同時に「自分自身で構築したトレードの仕方、考え方」
もしくは、「他の人から伝授されたトレードの仕方、考え方」を
しっかりと身に付けて、自分自分の”トレード技術"を向上させていくためにも
"検証"という作業が必要不可欠になり
その"検証"なくしては、勝てるようになるのは不可能といっても
過言ではないくらい非常に重要なものになります。

（ただ、すでに出来上がっている優秀なEAなどを稼働させて
利益を得ようとする場合は、また別です）

僕自身も、日々生徒さんを指導、サポートしていく中で
「"検証"が重要になるので、まずはとことん検証をしていきましょう」
というようなアドバイスを、よくさせていただくのですが
ただ、この"検証"について
『具体的にどういうやり方、考え方をもって検証していけば
効果的に、且つ確実に自分のトレード技術が向上し成長していけるのか？』

という部分が、いまいち良く分かっておらず
間違った検証の仕方をしてしまっており、検証自体はしているものの
その検証が「自分の身になっていない」
また「検証をやっている意味が全くと言っていいほどない」という状態に
なってしまっている方がちらほらいらっしゃるので

今回は特にそういった方に向けて、本書（裁量トレード徹底検証マニュアル）では
そういった**『確実に成長するための具体的な検証の仕方』**について
順序立てて、詳しく説明していこうと思います。

僕自身、勝てるようになるまで
当時出ていた、一番優秀な検証ソフトである”FT2”（現在はFT4）を
とにかくひたすら回しまくり、本当に色々な検証方法を「あーでもない、こーでもない」と
試行しまくった過去があります。

そういった過去に本当に多くの検証方法を試してきたからこそ
どういった検証のやり方や、考え方を持って検証していけば良いのか、悪いのか？
また「**どういった検証の仕方が一番効率的、且つ効果的に成長できるのか？**」
というような部分が、しっかり理解でき分かっているつもりです。

ですので、皆さんには決して遠回りすることなく
効果的、効率的に検証を行い、それがしっかりと確実に自分自身の成長に繋がり
ひいては、無駄なく「勝ち続けていける技術の習得」をきっちり達成できるような
『具体的な検証の仕方』を本書（裁量トレード徹底検証マニュアル）を通して
しっかり伝えていければなと思います。

この本書を、最後まできっちり読み終え
そして、それを”行動”に移すと言いますか、本書に書かれている
“やるべきこと”や”それをやる順序”に沿って、しっかりとその通りに検証を行い
一つずつそれらのステップをクリアしていくと、着実に一歩ずつ”勝ち組”に近づき
つまり、成長し最終的に誰しも必ず”勝ち組”になれるものだと思っています。

この本書の通りに、とことん検証に打ち込んでいただければ
本当に誰しも自然に”勝ち組”に入ることは可能なのです。

ですので、是非本書をしっかりと読み込み
あくまで、この本書の内容通りに“検証”に、力を入れていっていただきたいと思います。
（本書の内容通りに”検証”をすることが重要になります）

ちなみに、本書では
あくまで、”FT4”(FT3やFT2なども含め)を使用しての検証を前提として
その検証の具体的なやり方、順序、考え方などを話していきますので
現時点で、その”FT4”をまだ持っていないということであれば
まずは、その”FT4”の入手から行っていただければと思います。
(FT3やFT2などを既に持っているという方は、特に別途FT4を購入する必要はございません)

“FT4”の詳細、ご購入はこちらから ➡ FT4正規販売ページ

“FT4”を代表とする、検証ソフトについては
FT4の他にも、いくつかありますが、現状検証ソフトの中では
このFT4が、一番使い勝手が良く、色々なことが幅広くでき
且つ、MT4やMT5などとも相性がばっちりなので
検証ソフトに関しては、このFT4を持っておくと間違いありません。

また、”FT4”にはそれぞれの用途にあわせて
いくつかのプラン（ベーシック、スタンダード、VIP）がありますが
この中のどのプランを選べば良いのか？、どのプランがお勧めなのか？などについては
最下部にあるアドレス宛にご連絡をくだされば、僕が相談に乗らせていただきます。

というわけで、あまり前置きをだらだらと話しても仕方がないので
早速ですが本書の本題へと移っていきますね。

chapter 1 ,　【検証を正しく、且つ効率的に行うための重要な目的設定】

というわけで、早速本題に入っていくのですが
まず"検証"をするための目的から、今一度整理していきましょう。

検証をする目的というのは、先ほども言った通り
言わずもがな「FXで勝ち続けていける技術を習得するため」ですよね。

この部分に関しては、誰しも共通認識になると思います。

一部、例外はありますが
あくまで、裁量でのトレードを身に付けようとしている方の
大部分は、この「FXで勝ち続けていける技術を習得するため」というのが
検証をする際の根幹の目的になるはずです。

ただ、これはあくまで大本であり、且つ"最終目的"でもあります。

実際、「FXで勝ち続けていける技術を習得するため」という目標に向かって
検証しようとしても「具体的に何から始めればいいのか？」という部分が分からず
FXで勝ち続けていける技術を習得するために「今やるべきこと」が
明確にはならないんですね。

なので、まず必要になってくるのが「**目的の細分化**」です。

つまり、「FXで勝ち続けていける技術を習得するため」という
最終目的のために、自分が”今すべきこと"をはっきりと明確にし
それを"本来の自分の目的"とし、その本来の自分の目的を達成するために
ひたすら検証をしていく。

そして、その目的を達成すれば、また次の目的へ
その目的も達成すれば、また次の目的へ、、、

というようにして
漠然と「FXで勝ち続けていける技術を習得するため」に検証をするのではなく
今言った「今やるべきこと」つまり、”本来の自分の目的"を達成するために
全力で検証に取り組み

そして、最終的に当初の根幹の目的である「FXで勝ち続けていける技術を習得する」
という部分に繋げていく「目的の設定の仕方」が回り道することなく
確実に自分のトレード技術を向上させ、成長させていくために
非常に重要な部分になってきます。

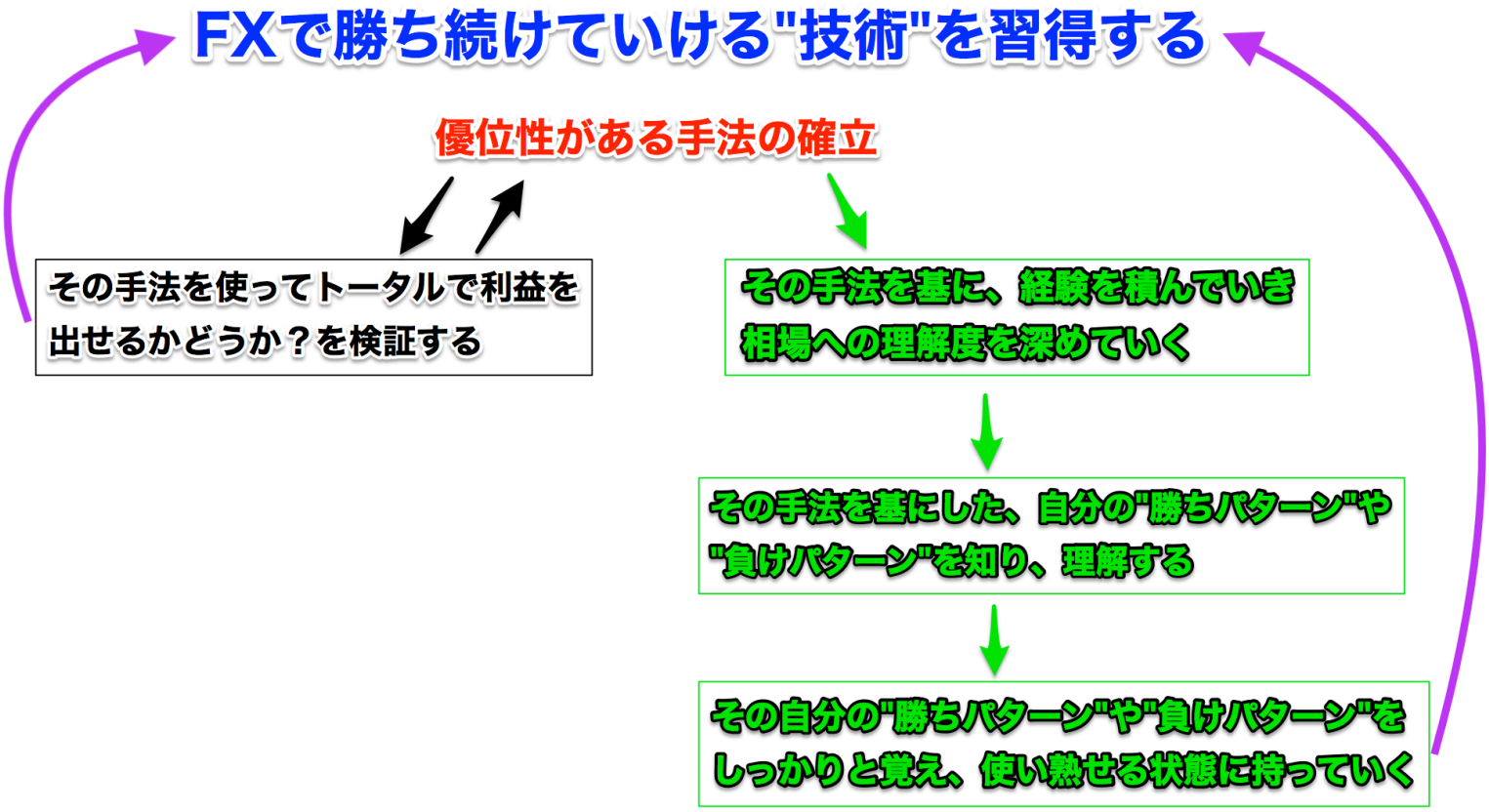
（と言いますか、極端な話「今やるべきこと」にフォーカスし
ひたすら検証を続けていくと、自然と気付いた時には
"FXで勝ち続けていける技術"が身に付いていたりします）

では、具体的にどういうふうに自分が「今やるべきこと」を明確にし
「"検証の目的"を設定していくか？」についてですが、これは意外と簡単です。

これこそが、先ほど言った「目的の細分化」という部分になるのですが
実は、最終目的の"FXで勝ち続けていける技術"を習得するために検証でやること
つまり、検証を行う際「達成すべき目的」というのは、ある程度決まっていて
（検証を行う際に重視する"テーマ"とも言えます）

その細分化した目的の中で、現在自分が達成できていない目的にフォーカスし
その達成できていない目的を「今やるべきこと」
即ち、自分自身の"検証をする目的"として設定するのです。

⬇の図を見てください。



これが、今言った
最終的な「FXで勝ち続けていける技術"を習得する」という目的に繋がる
“細分化した目的”の一覧、順序になります。

どうでしょう？

意外と簡素と言いますか、目的を細分化しても
そもそも検証で「やるべきこと」というのは、それほど多くはありませんよね。

上の図のように、「FXで勝ち続けていける技術"を習得する」という
最終目的を達成するためには、まず「優位性がある手法の確立」

これが、必要不可欠です。

"優位性がある手法"と、大雑把に一括りにしましたが
ここでいう"優位性がある手法"というのは
要は、「自分のトレード仕方、考え方、またトレードスタイルの確立」
といったトレードをする際の"軸"となるトレード方法全般と考えてください。

まずは、その軸となる"優位性がある手法"をしっかり確立させるのが
初めにすべきことになるのですが、ただここで極めて重要になってくる部分が
「自分は最終的にどういったトレードができるようになりたいのか？」
という理想像、と言いますか**"自分が進みたい道"**になります。

今回、この検証についての話は
大前提として「"裁量トレード"で、自分の技術で勝てるようになりたい！」
というに方に向けてのものになっているのですが
実は、その"裁量トレード"の中にも大きく分けると
２種類の裁量トレードに対する考え方があります。

それによって、上の図のように"進むべき道"が分岐していくのですが
では、その「２種類の裁量トレードに対する考え方」の違いとは？というと

「その時の相場の動きに合わせるのか？」
それとも
「その手法が合う相場でのみトレードするのか？」
の違いです。

これは、どういうことかというと
まず、"優位性がある手法"をしっかり確立させていく上で
自分は**「その時の相場の動きに合わせて臨機応変に対応していき
柔軟性のあるトレードをしていきたいのか？」**

それとも、、、

「その手法が機能する相場を選んで
あくまで、その手法が機能する相場のみでトレードしていくのか？」

どちらのタイプの"裁量トレード"をしていきたいのか？
ということですね。

これは、その人の好みや性格、環境などによって左右される部分でもあるので
「こちらが良い！」ということはなく
ましてや「こちらが正解」というものでもないのですが
それぞれに"一長一短"はあります。

前者の「**その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする**」
というトレードの仕方であれば
後者の「その手法が機能する相場のみでトレードする」
というトレードの仕方よりも、その時々の相場に合わせるが故に
自分の技量次第でトータルのパフォーマンスをかなり高いところまで持っていくことができ
且つ、「リスクが高いところではトレードしない」や
「伸ばせるところはとことん伸ばしていく」といった
その時の相場に合わせた”選択"が自分自身で出来、安定性の高いトレードが出来ます。

つまり、文字通りその時の相場に合わせた
「**ベストな"リスク"や"リターン"のコントロールが出来る**」
という部分が大きなメリットになります。

その代わり、デメリットとしては
こちらは、「**相場を読む力**」がある程度の高い精度で求められるが故に
何と言っても"難易度"が高いです。

FXの数あるトレードの仕方の中でも
一番難しいといっても過言ではないくらい、難しい戦い方になります。

なので、このタイプのトレードの仕方は
当然、習得までにかなりの労力を要します。

とはいえ、一度そういったトレードの仕方を習得してしまえば
非常に多くの場面で、十分な自信を持ったトレードができ
本当に冗談抜きで、多大な利益を自分の腕一つで生み出し続けていくことが可能になります。

対して、後者の「**その手法が機能する相場のみでトレードする**」
というトレードの仕方であれば、こちらはどちらかというと
「裁量トレードなんだけど、ややシステマチックなトレード」といった感じです。

トレードというのは、言うまでもなく常に"確率論"なのですが
この後者のトレードの仕方は、よりその"確率論"による考え方が強い
トレードの仕方になります。

とある手法を確立すると同時に、その手法が機能しやすい相場
つまり、「〇〇の相場では勝ちやすいから、〇〇の相場で使用し
△△の相場では負けやすいから、△△の相場では使用しない」というのも決め
そして、リスクリワードも１：２にして、、、

というように、トレードをする際のルールを結構がちがちに固めて
それを相場に当て嵌めたときに、トータルでプラスになるかどうか？
「期待値はプラスかどうか？」という部分に重点を置き
もし、期待値がプラスであれば、淡々とそのルール通りにトレードし
最終的にプラスに持っていく。

という、ややシステムトレードに近いようなトレードになるのですが
こちらのトレードの仕方の大きなメリットとしては
先ほどの、「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
といったものとは違い、そもそも「その時の相場に合わせた判断」という部分を
端から考慮しておらず"ルールが一番"なので、基本的に相場の動き
というものは関係がないと言いますか、そういった相場の動きを
あまり"判断材料"にはしないのです。
（ただし、多少相場の動きを考慮し、判断材料に加える場合もあります）

単純に、ルール通りにトレードをするので
「今は、こういう動きだからこう判断した方がいいかな？」
「ここからこういう動きになれば、リスクが低くなるから
こういうふうに攻めていった方がいくのが良い」
というような、相場の動きによって「判断に迷うこと」は
限りなく少なくなります。

特に、まだ経験が浅く"相場の動きを読む"という力があまり無い方や
初心者さんなどにとっては、こういった部分はかなり大きなメリットとなり
常に「ルールに当て嵌まるか？否か？」という部分が主軸の判断要素になってくるので
今言ったように、トレードする際の"迷い"や"混乱"というものが
かなり起こりにくくなります。

なので、精神的にもかなり楽だったりします。

それでいて、こういったトレードの仕方の難易度も
先ほど「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
というトレードの仕方と比べると、あまり「相場を読む力」を必要としないので
比較的易しいです。

ただ、相場を読んで、その時の相場に合わせたトレードする
というわけではないので、相場がその手法に合致する動きになるまで
待つ必要があり、そういった場所のみでしかトレードできないので
「トータルのパフォーマンス」という点でいうと
基本的に、前者の「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
と比べた場合、遠く及びません。

これが、この後者の「その手法が機能する相場のみでトレードする」
というトレードの仕方の、最大のデメリットになります。

「２度と同じ動きをしない」と言われる相場に対して
どんな動きにも合致して、利益に繋げていける手法を作る
ということは、まず不可能で
このトレードの仕方では「ある一定の型、基準、パターン」などを
相場を当て嵌めて、その「一定の型、基準、パターン」などが
当て嵌まるところでしかトレードできず
「相場が○○の動きをしたからこう判断する」
「△△の動きをしたからこういうふうに狙っていく」
というような、その時の相場に合わせた判断ができないため
「相場が◇◇のような動きになるまで
つまりその手法、ルールに当て嵌まるような相場になるまで待たなければならない」
ということなんですね。

なので、必然的に"トレードできる場所"
"利益を取れるポイント"が限られてくるため
パフォーマンスは頭打ちになり、あまり突き抜けた成績は出せません。

僕の体感としては
この「その手法が機能する相場のみでトレードする」
というトレードの仕方で、安定的に月100pips～200pips程取れれば
かなり優秀な手法、ルールだと感じます。

もちろん、月100pips～200pips程を安定して獲得できる
手法、ルール作りが簡単にできるというわけでは決してなく

寧ろ、めちゃくちゃ難しく
事実、殆どの人はそういった優秀な手法を構築できないのですが
仮に、そう言った手法を構築できたとしても
このタイプのトレードの仕方だと、どうしても月100pips～200pips辺りが頭打ちで
それ以上、例えば"月300pips"以上を安定的に取ろうとするのあれば
やはり、**"相場を読む力"**つまり「その時の相場の動きに合わせた判断」が
必須になってきます。

なので、そういった部分が
大きなデメリットとして挙げられます。

ちなみに、前者の「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
というトレードの仕方と
後者の「その手法が機能する相場のみでトレードする」
というトレードの仕方の中間と言いますか
どちらの要素も入っているトレードの仕方でトレードでしている人も
中にはいますが、そういったトレードの仕方については
ちょっとややこしくなるので、今回は省きます。

なので、"裁量トレード"というものは
基本的に大きく分けると、今言ったように
「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
というトレードの仕方と
「その手法が機能する相場のみでトレードする」
というトレードの仕方の２通りがある。

まずは、これを知っておいてください。

で、これらトレードの仕方によって
検証の仕方、考え方が大きく異なってきますので
だからこそ、先ほども言ったように
「自分はどういったトレードをできるようになりたいのか？」
という部分から、まずはしっかり決めていかなければならないんですよね。

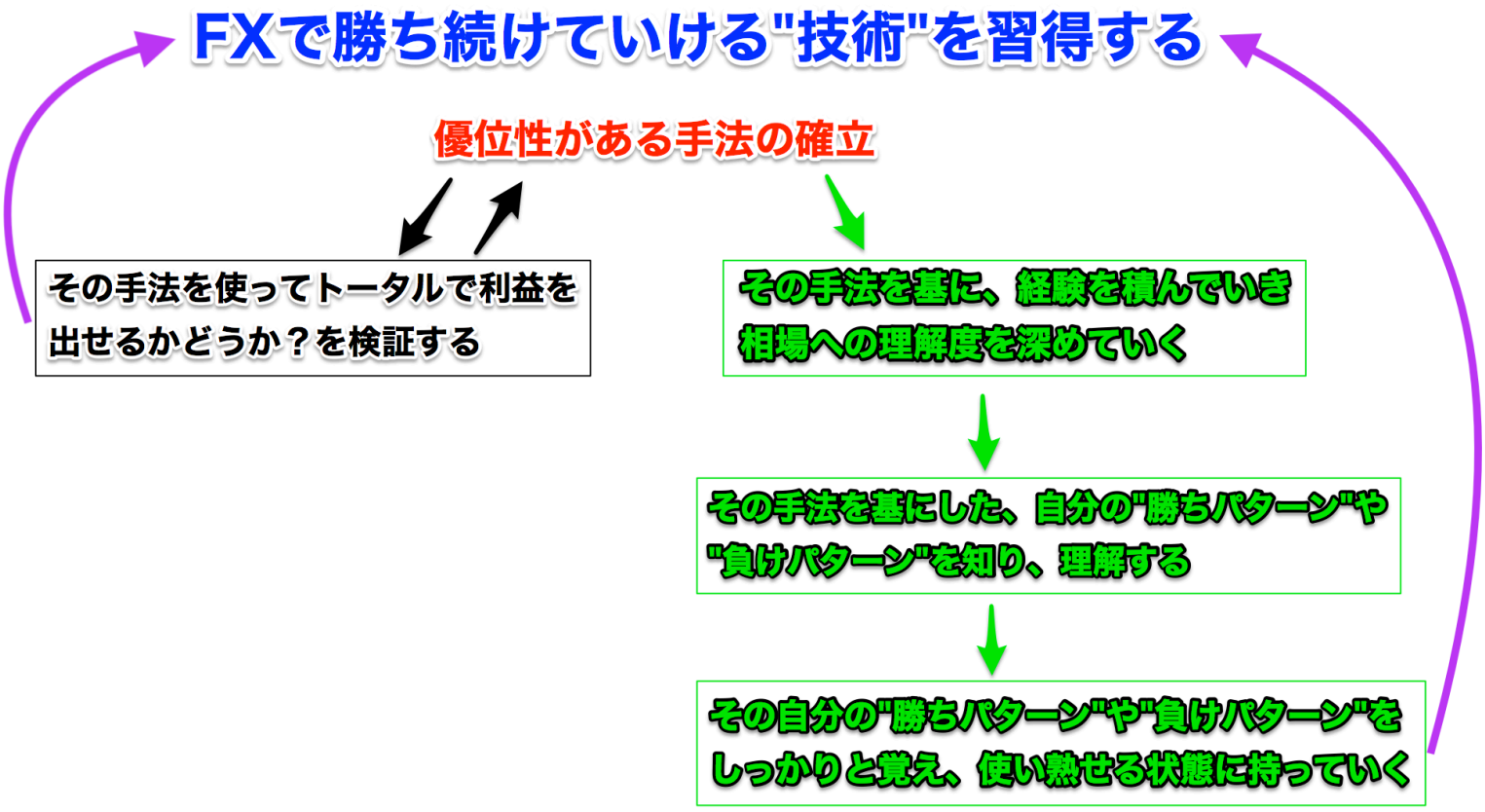
ここをはっきりとさせないまま
検証をしていても、自分が今やるべき事に対して100%の力を発揮できず
"自分が今やるべき検証をする目的"と"実際にやっていること"の間に乖離が生じてしまい
少なからず、遠回りになってしまいますし
最悪の場合、検証をやっている際に徐々に混乱してきてしまい
「何の為に検証をやっているのか？」も
分からなくなってくることもあるので、注意が必要です。

なので、まずは「自分はどういったトレードをできるようになりたいのか？」
この部分をしっかりと明確に決めていきましょう。

chapter２，　【「手法が機能する相場のみでトレードする」というトレードの仕方で勝ちを目指していく場合の具体的の検証の仕方、考え方】

２－１，『トレードの仕方の大前提となる考え方と、達成すべき目的』

「自分はどういったトレードをできるようになりたいのか？」という部分を決めれば
その"裁量トレード仕方、考え方"に合った検証を行なっていき
最終的に「その裁量トレード仕方、考え方で勝てるようになる」
という目的を達成していくのですが、ここで今一度先ほどの図を見てください⬇



先ほど「異なる２種類の裁量トレードに対する考え方」によって
その後、"進むべき道"（検証の仕方や目的）が上の図のように変わってくる。

ということを言いましたが
では、どちらのトレードの仕方が、どういう道になるのか？というと

まず、「"優位性がある手法"を構築させる」というのは
どちらのトレードの仕方、考え方においても共通している部分になり
「そういった手法が構築できている」ということを前提
つまり、スタートラインとし
そこから「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
というトレードの仕方、考えであれば"右"の緑矢印の方向が進むべき道で

もう一つの「その手法が機能する相場のみでトレードする」
というトレードの仕方、考え方のほうは、**"左"の黒矢印の方向が進むべき道**になります。

ちなみに、「その"優位性のある手法"をまだ持っていないよ！」
という方は、本書で話す具体的な検証の仕方は、既に”優位性のある手法”が
ある程度出来上がっているという前提になるので
そういった方は、まずは優位性のある手法の構築に注力してください。

とはいえ、これから話していく検証を行っていく中で
そういった”優位性のある手法”というのは、自然に構築されていくものでもあるので
現段階で”優位性のある手法”を持っていないという方も、特に問題はありません。

また、【エントリーマニュアル】をお持ちの方は
それが、そのまま"優位性のある手法"なので
特に、自分で"優位性のある手法"を構築する必要などは一切なく
既に"優位性のある手法"を確立できている状態になり
要は、"スタートライン"には立てている状態になります。

では、そろそろ今回の記事の"肝"となる
「確実に成長する具体的な検証の仕方、考え方」の部分の説明に
移っていこうと思うのですが
まずは「**その手法が機能する相場のみでトレードする**」
というトレードの仕方、考え方のほうから説明していきます。

この「その手法が機能する相場のみでトレードする」
というトレードの仕方、考え方で勝てるようになりたい！
という場合は、先ほども言ったように
上の図の『**"左"の黒矢印の方向**』が進むべき道になります。

そして、結論から言うと「こちらのトレードの仕方、考え方」の場合
『その"優位性のある手法"を使ってトータルで利益出せるかどうか？』
『もし利益を出せるなら、どのくらいの利益を出せるのか？』

という部分などの"データ"を取るため。
というのが"検証"をする最大の目的であり
その「**データを取ること**」こそが、"検証で今すべきこと"になります。

先ほども言いましたが
この「その手法が機能する相場のみでトレードする」
というトレードの仕方、考え方の場合
裁量になるのだけど、どちらかというとやや"機械的なトレード"になり
ある一定の型、基準、パターンなどで構築した
その手法、ルールに当て嵌まったトレードができるのかどうか？
という視点で相場を観つつ、淡々と一定のルールに沿ってトレードを行なっていく
そして、トータルでプラスを目指していく。

という考え方になるので
「その時の相場の動きに合わせた、判断力や洞察力」ではなく
「その手法やルールを如何に相場にフィットさせるか？」
つまり、「どの相場でどういう手法やルールを当て嵌めていけば利益を最大化できるのか？」
という部分にしっかりと力を注いでいく必要があります。

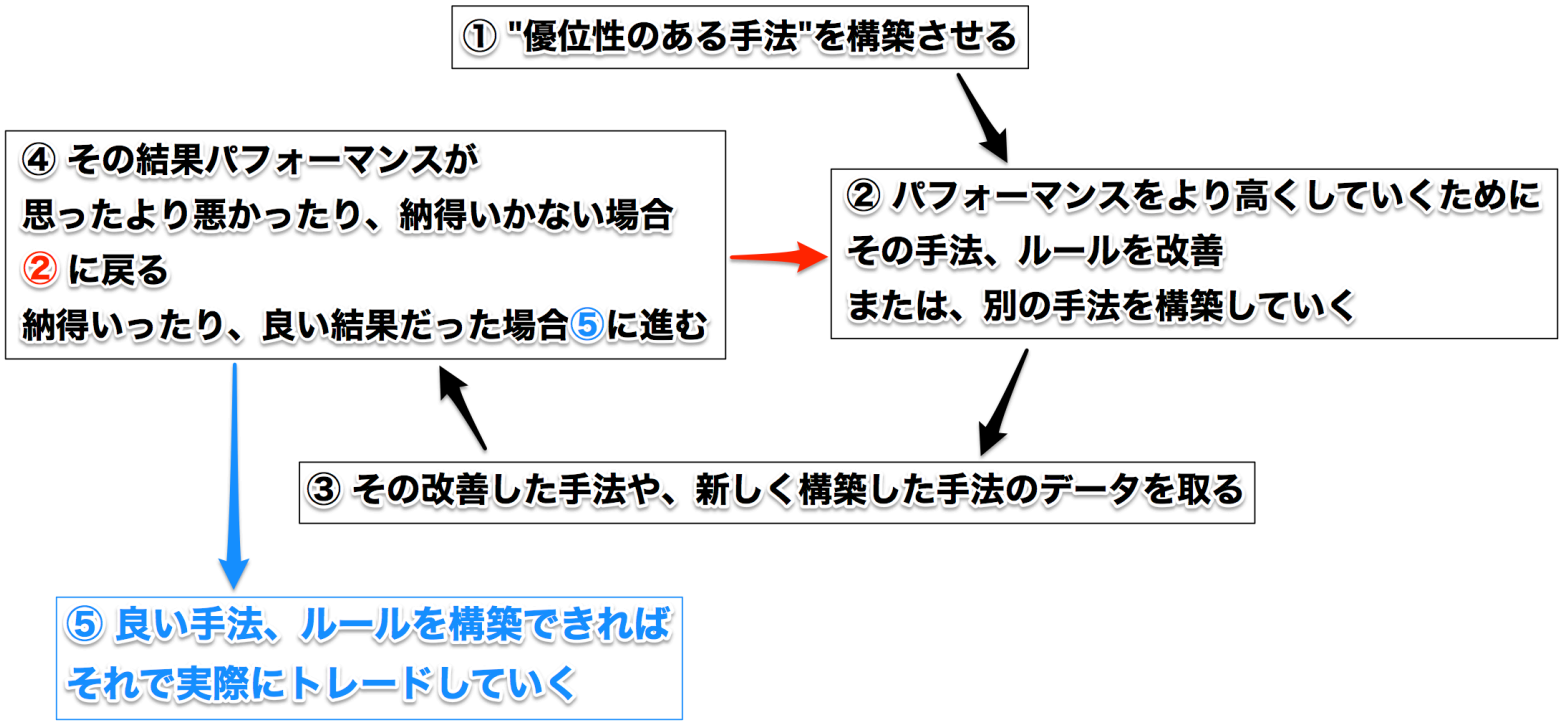
この「その手法が機能する相場のみでトレードする」
というトレードの仕方、考え方の場合
"優位性のある手法"を構築したら、そのデータを元にどういうものを足したり引いたり
はたまた、どういうルールを加えていけば、より元の手法を上回る成績を出せるのか？
を検証によってひたすら試していく。

というようなイメージなので
どちらかというと、”検証"というよりも"バックテスト"
「どれくらいの成績が出るのか？」のシミュレーションを繰り返して
より高く安定したパフォーマンスが出せるであろう
手法、ルールを構築させていくといった意味合いの方が適切かもしれません。

なので、この「その手法が機能する相場のみでトレードする」
というトレードの仕方、考え方で最終的に勝てるようになるためには
手法を構築しては、その手法やルールを改善したり、また別の手法を構築したりして
その別の手法を検証しまた新しい手法、ルールを構築し
そしてまたそれを検証して、、、

というように、上の図の黒矢印を行ったり来たり繰り返しながら
徐々に良い手法、ルールを作っていくという感じなります。

そして、その中で”検証"の目的をより細分化していくと
下の図のような感じになります⬇



「その手法が機能する相場のみでトレードする」というトレードの仕方で
しっかり安定して勝てるようになるための技術（手法、ルール）を
習得するまでの道筋、検証をする目的をより細分化すると
上の図のようになります。

---

①「"優位性のある手法"を構築させる」

⬇

②「パフォーマンスをより高くしていくためにその手法、ルールを改善」
または、「別の手法を構築していく」

⬇

③「その改善した手法や、新しく構築した手法のデータを取る」

⬇

④「パフォーマンスが思ったより悪かったり、納得いかない場合
②の「パフォーマンスをより高くしていくためにその手法、ルールを改善」
または、「別の手法を構築していく」という工程に戻り
そのパフォーマンスに納得いったり
良い手法、ルールが出来上がれば、次の⑤に進む

⬇

⑤「良い手法、ルールを構築できれば、それで実際にトレードしていく」

「その手法が機能する相場のみでトレードする」というトレードの仕方で
勝ちを目指していくのなら、こういった順序で"目先の目的"を達成していきつつ
最後の⑤「良い手法、ルールを構築できれば、それで実際にトレードしていく」
という目的に到達することができれば、同時にその時点で
しっかりと「**安定して勝てる技術（手法、ルール）**」を習得できている。

ということになるので
当初の根幹の目的である「FXで勝ち続けていける技術を習得する」
という目的の達成ということになります。

（ちなみに、ここでは”メンタル面”や"資金管理"などの部分に関しては考慮しないものとし
あくまで、「勝てる”技術"を身に付けるには？」という部分にフォーカスしています）

どうでしょう？

こちらの「その手法が機能する相場のみでトレードする」という
トレードの仕方、考え方で勝ちを目指すための
「検証をする詳細な目的」に関しては、意外とシンプルですよね。

結局のところ、この「その手法が機能する相場のみでトレードする」
という考え方は、先ほども言ったように
どちらかというとやや"機械的なトレード"になり、検証というよりも
「バックテストをしてその手法や、ルールの有効性などを確認していく」
というような要素が強いので、検証の際にやることとしては
分かりやすく言うと
「手法やルールを作る → そのデータを取る → その手法やルールを改善していく」
といった感じで割と簡素です。

検証でやることや、その目的自体は決して難しくはないものの
とはいえ、その目的を達成していく中身の部分
つまり、肝である「実際の相場で有効性、実用性の高い手法やルール」を
構築していくのは、かなり難しいです。

まぁ、これが簡単にぽんぽんできれば
これほど「FXで勝てない人」というのは多くないですし
実際に、殆どの方が「実際の相場で有効性、実用性の高い手法やルール」を構築できず
検証を諦めたり、なかなか安定した利益を出し続けていけないもののFXを続けている
という方、また中には退場していく方も決して少なくはありません。

２－２，『具体的な検証の仕方、データを取ることの重要性』

では、その「実際の相場で有効性、実用性の高い手法やルール」を構築するためには
具体的にどうすればいいのか？というと、、、

正直なところ、これに関してはとにかくもうトライ＆エラーの精神で
色々な手法やルールをどんどん試していく他ありません。

初めから、完璧な手法やルールが出来る訳もないので
初めは"完璧"を目指さなくても全然OKです。

まず、様々な手法やルールなどをとにかく試しまくり
そのデータを取っていくうちに、それらのデータから必ず弱点や改善すべき点などが見えてきて
「ここはこう改善した方がいいな」
「このルールはむしろ、マイナスになるから排除した方が良さそう」
「ということは、こういったルールを追加すればより良くなりそう」
などなど、、、

そういった部分が、データから自然に分かるようになってくるので
そういうふうに、まずはどんどん"試験"していけば良いのです。

そうすれば、間違いなく確実に前進していきますし
（絶対に後退することはありません）
そうすることによって、徐々に一つの"型"と言いますか
"土台"のようなものが出来上がっていきます。

そして、そういった"土台"のようなものが
うっすら見えてくれば、あとはその"土台"のようなものを基にして
次は、微調整を繰り返していくイメージで、細かい改良をしていくと
少しずつではありますが、しかし一歩ずつ確実に
「実際の相場で通用する有効性、実用性の高い手法やルール」
というものが出来上がっていくはずです。

それが、なかなか出来上がってこない
ということであれば、それは単純にまだまだ「試験をする数」が
足りないということなので、どんどん「これは勝てるであろう」という
手法、ルールなどを試験していくのみです。

ちなみに、その試験をする際"統計的なデータ"を取るのに
つまり、一つの手法やルールを仮説として立て、検証していく際に
その手法、ルールの信頼できるであろう"統計的なデータ"を得るには
「だいたい、何年分検証をやればよいのか？」という部分についてですが
これに関しては、およそ"10～15年分"ほどの検証を行えばOKです。

あまりに検証期間が短いと、統計的なデータが取れず
例えば、その検証をした期間が「たまたまトレンドがはっきり出ており
何も考えずトレンドフォローで攻めていくだけで、簡単に利益が出るような相場だった」
というような場合もあり
そういった相場に対して「トレンド系の手法」を当て嵌めた時に利益が出るのは
ある意味当たり前で、重要なのはその「トレンド系の手法」を使って"方向感がない相場"や
"レンジのような動きをしている相場"などの、様々な相場環境の中で
トレードした時に、長期的に見るとどういう結果になるか？

という部分なので、そういった一時的な相場のみに対してのデータは
「統計的、長期的に見たときにどういった結果になるか？」が分からないからこそ
あまり信頼できるデータとは言えない、ということが言え
また、そもそもFXで勝ち続けていこうとするのであれば
「一時的に勝てる手法」などに意味はないので
そのような「一時的な相場のみに対してのデータ」は
あまり信頼できない、と考えてください。

では、「だいたい、何年分ほどの検証をやれば統計的に信頼できるデータが取れるのか？」
というと、これが先ほども言ったように"10～15年分"ほどの期間が
一つの目安になるということになります。

もちろん、検証期間は長ければ長いほど良いので
"10～15年分"以上の期間で検証をしても全然OKなのですが
一応、およそ"10～15年分"ほどの検証結果があれば
一先ず統計的、長期的に信頼できるデータが取れると
考えていただいてOKです。

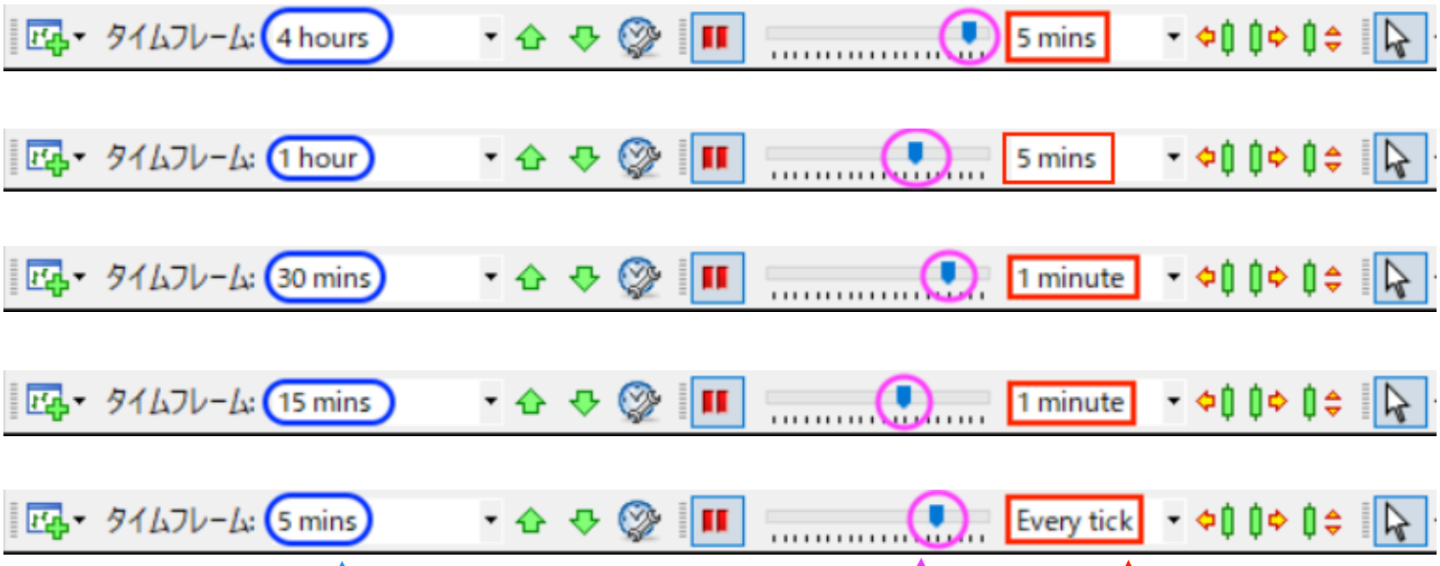
なので、「一つの手法、考え方」を検証し、データを取っていく上で
この"10～15年分"ほどの期間を一つのサイクルとして
検証していくと良いです。

次に、これも重要な「検証をする際のスピード」に関してなのですが
これについては、この「その手法が機能する相場のみでトレードする」という
トレードの仕方、考え方で勝ちを目指していく場合であれば、割と"早め"でもOKです。

「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
というトレードの仕方、考えで勝ちを目指していく場合であれば
その「検証をする際のスピード」も変わってきてくるのですが
（これに関しては、後ほど説明します）
「その手法が機能する相場のみでトレードする」という
トレードの仕方、考え方で勝ちを目指していく場合であれば
そもそも、先ほども言ったように考え方としては
どちらかというと
「その手法やルールの有効性、またどれくらいのパフォーマンスが出るのか？
という部分の統計的なデータを取っていく」というのが
検証をする大きな目的になってくるので
その"検証をするスピード"については、基本的に早めにしても
特に問題ありません。

イメージとしては、"FT4"を使用し「エントリーできるような動きになるまで早送りし
エントリー後は、また決済ポイントまで早送りをする」というようなイメージで
ひたすら「データを取るため」の”効率化"を目指していってください。

では、具体的にどれくらいの「検証スピードが良いのか？」というと
これは、検証をする際に「どの時間足を主体とするのか？」
つまり、「どの時間足の相場を見ながら検証するのか？」によっても変わってくるのですが
一応、それぞれの時間足の検証スピードの目安は、下記の図⬇のような感じになります。



青枠で囲った部分
➡ 現在表示させている時間足

紫枠で囲った部分
➡ ローソク足を進める"速度"を調節するメモリ

赤枠で囲った部分
➡ ローソク足を進めるベースの時間
（ローソク足を何分ベースで進めるか？）

実際に”FT4(FT3やFT2なども含む)"で、検証をしたことがある方は分かるかと思いますが
上の画像は、"FT4"の上部のツールバーの一部分になります。

まず、このツールバーの"青枠"で囲った部分が
➡ **現在表示させている時間足になります。**

これは、そのまま読んで字の如く
「現在検証している際に表示させている時間足」ですね。

なので、４時間足のチャートを表示させていれば
青枠の部分が"４hours"に、１５分足のチャートを表示させていれば
"１５mins"と表示されます。

そして、次に"紫枠"で囲った部分が
➡ **ローソク足を進める"速度"を調節するメモリになります。**

これが、検証をする際にローソク足（レート）を進めるスピードを
調節するメモリになり、青のつまみを左側に寄せるほど遅く
右側に寄せるほどレートが進むスピードが速くなります。

そして、"赤枠"で囲った部分は
➡ **ローソク足（レート）を進める際のベースとなる時間を決める部分になります。**

つまり、「ローソク足（レート）を何分ベースで進めるか？」という部分になり
例えば、"Every tick"を選択すると、tickベースの値動きが反映され
"1minute"を選択すると、1分足ベースの値動きが反省されて
レートが進んでいくということになります。

なので、仮に"1minute"を選択した場合
今言ったように「1分足の値動きのデータ」そのものがFT４上に反映されるので
「その1分足の中に内包されている値動き」というのは
FT４上では反映されないということになります。

分かりやすく言うと
そもそも為替レートというのは、刻一刻とそれこそ数秒毎に動いているものなのですが
ローソク足（レート）を進める際のベースとなる時間を"1minute"に選択した場合
その数秒毎に動いている値動きを、全て端折って1分経ってやっとレートが変わる
また、1分経てばレートが変わる、、、

というような感じで、1分毎にしかレートが変わらない、ということです。

他の時間でも同じで、"5minute"を選択すると、5分間はレートが一切変わらず
5分毎にレートが更新され
"15minute"を選択すると、15分間はレートが一切変わらず
15分毎にレートが更新される

ということになるんですよね。

なので、この「**ローソク足（レート）を進める際のベースとなる時間**」を
長い時間にすればするほど、レートが飛ぶという現象が起きるので
値動きが実際のリアルな相場と比べると荒くなる、と考えてください。

だからこそ、そう言った意味では
本当は「実際のリアルな相場の値動き」と乖離が最も小さい
"Every tick"を選択して、検証を進めていくべきなのですが
ただ、"Every tick"では"1minute"よりも、さらに短い"tick"ベースの値動きになり

（ちなみに"tick"とは、レートの変動毎に反映されるものであり
何分毎、何時間毎というような時間の概念を持っていないものになります。

時間ではなく、あくまで少しでもレートが変わればその都度反映されるものになるので
同じ時間、例えば同じ10分間でもレートの変動が激しければティック数は増え
レートの変動が閑散としていれば、ティック数は減少します）

値動きを進めるスピード、つまり検証を進めるスピードが
どうしても遅くなってしまうので
あくまで、この「その手法が機能する相場のみでトレードする」という
トレードの仕方、考え方で勝ちを目指し、検証をしていく場合であれば
先ほども言ったように、「どの時間足で検証するか？」によっても変わってきますが
"1minute"や"5minute"などにして、少し早めてもOKということになるんですよね。

で、この場合の具体的な検証スピードはというと
上の画像のような検証スピードを、"目安"にすると良い
ということになります。

つまり、"4時間足"で検証するなら
ローソク足（レート）を進める際のベースとなる時間を"5分"に設定し
ローソク足を進める速度を調節する青いつまみを、上の画像の"紫枠"で囲った部分に持っていき

"1時間足"で検証するなら
ローソク足（レート）を進める際のベースとなる時間を"5分"に設定し
ローソク足を進める速度を調節する青いつまみを、上の画像の"紫枠"で囲った部分に持っていき

"30分足"で検証するなら
ローソク足（レート）を進める際のベースとなる時間を"1分"に設定し
ローソク足を進める速度を調節する青いつまみを、上の画像の"紫枠"で囲った部分に持っていき

"15分足"で検証するなら
ローソク足（レート）を進める際のベースとなる時間を"1分"に設定し
ローソク足を進める速度を調節する青いつまみを、上の画像の”紫枠"で囲った部分に持っていき

"5分足"で検証するなら
ローソク足（レート）を進める際のベースとなる時間を"Every tick"に設定し
ローソク足を進める速度を調節する青いつまみを、上の画像の"紫枠"で囲った部分に持っていく。

といった感じです。

これくらいの検証スピードであれば
遅過ぎず、早過ぎず、いい具合に検証を進めていけるので
これくらいの検証スピードを目安にしてがんがん検証をしていくのがオススメです。

ただ、この"検証のスピード"という部分は
同じスピードでも、人によっては遅く感じたり、逆に早く感じたり
する場合もあるので、あくまで"**一つの目安**"と考えてください。

なので、もしこの目安の検証スピードが少し遅く感じる
という方は、ローソク足（レート）を進める速度を調節する青のつまみを
右に移動させて検証スピードを少し上げたり

逆に、この目安の検証スピードが少し早く感じる
という方は、ローソク足（レート）を進める速度を調節する青のつまみを
左に移動させて検証スピードを少し下げたりしつつ
「自分にはこの検証スピードが合っている」と思う
自分の中のベストな検証スピードを見つけていってください。

ただし、この時検証スピードを早くし過ぎて
その手法でエントリーできるであろうポイントを見逃したり
エントリーポイントがあったのにも関わらず
そのポイントがエントリーポイントと認識できなくなるほどの
スピードに上げるのは絶対にNGになので、その点はくれぐれも気を付けてくださいね。

そこまで、スピードを上げてしまうと
"検証の質"が著しく下がってしまい、正確なデータを取ることはおろか
検証をする意味すらなくなってきてしまうので

こういった、検証スピード上げ過ぎるという点には
くれぐれも注意いただきたいところになります。

また、検証をする際のスピード関してもう一つ、、、

例えば、「**ダブルトップ（ボトム）に引けるネックラインで**
レジサポされてからの再下落（再上昇）を狙う」という手法、ルールを構築し
検証していくとします。

そういった場合、まずはその"ダブルトップ（ボトム）"が完成するまでは
先ほどいった、早めの検証スピードで進めていき
そして、ダブルトップ（ボトム）が完成すれば、そこから少しスピードを落とし
そのダブルトップ（ボトム）のネックラインでレジサポされるかどうか？
また、エントリーポイントになるかどうか？
という感じで、検証スピードをコントロールしていくと尚良いです。

そして、もしエントリーできそうな動きになればエントリーし
その手法、ルールの中で決められた決済ポイントに到達するまで
またスピードを戻して早く進める。

逆に、エントリーできない動きになれば
エントリーできそうな動きの少し前
つまり、この場合であれば"ダブルトップ（ボトム）"が完成するまでは
再び、早めの検証スピードで進めていく。

というようにして
要は、「**エントリーポイント付近のみスピードを緩める**」
という感じで検証を進めていくと、エントリーチャンスを見逃すことも
かなり少なくなり、効率の良い検証ができるので
是非そういった部分も覚えておいてくださいね。

といった感じで、「その手法が機能する相場のみでトレードする」という
トレードの仕方、考え方で勝ちを目指していく場合の
検証の仕方、考え方などに関しては、大体こういった感じになります。

この「その手法が機能する相場のみでトレードする」という
トレードの仕方、考え方をもって勝ち目指していく場合の
検証の仕方、考え方などに関しては、ここまで何度か言ってきた通り
そもそもその検証の目的が、主に「その手法やルールに対しての統計的なデータを取る」
ということになるので、検証自体はそれほど難しかったり
ややこしかったりすることはなく、ごくシンプル且つ機械的になります。

なので、この「その手法が機能する相場のみでトレードする」場合の
検証に関しては、あまり悩んだり、検証していく上で何かの判断に迷ったりすることは
かなり少ないと思います。

（もちろん、検証するための手法やルールを作る段階では
大いに悩むこともあるかと思います）

なので、この「その手法が機能する相場のみでトレードする」場合の
検証に関しては、先ほども言ったようにひたすら”データ”を取ることに注力し
どんどん検証を行っていただきたいと思います。

では、次からは話は変わって
もう一方のトレードの仕方、考え方である
「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」場合の
具体的な検証の仕方、考え方についてです。

ここから話していく「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」の場合
検証段階で、自分の頭で考えなければならないことが多くなり、結構複雑化し
ここまで話してきた「その手法が機能する相場のみでトレードする」場合の検証と比べると
しっかりと自分の成長に繋がる"効果のある検証"を、正しく行うことが少々難しくなってきます。

とはいえ、こちらの「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
トレードの仕方、考え方でしっかり勝てるようになれば
本当に「その手法が機能する相場のみでトレードする」というトレードの仕方と比べると
常にその時の相場状況から判断できるリスクを、最小限に抑えつつ
がっつり資金を増やしていくことが出来、且つやはりその資金が増えるスピード
というのも格段に変わってくるので、正直なところ僕としては皆さんに
是非、こちらの「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
トレードの仕方、考え方でしっかり勝てるような技術を
自分のものにしていっていただきたいところになります。

ちなみに、今更ですが
僕自身のトレードの仕方、手法、考え方
また、僕が日々生徒さんや読者さんに教えていたり
“メール講座”や”LINE@"、"ブログ"などで発信しているトレードのやり方というのは
全て、今から話していく「**その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする**」
というトレードの仕方、考え方になります。

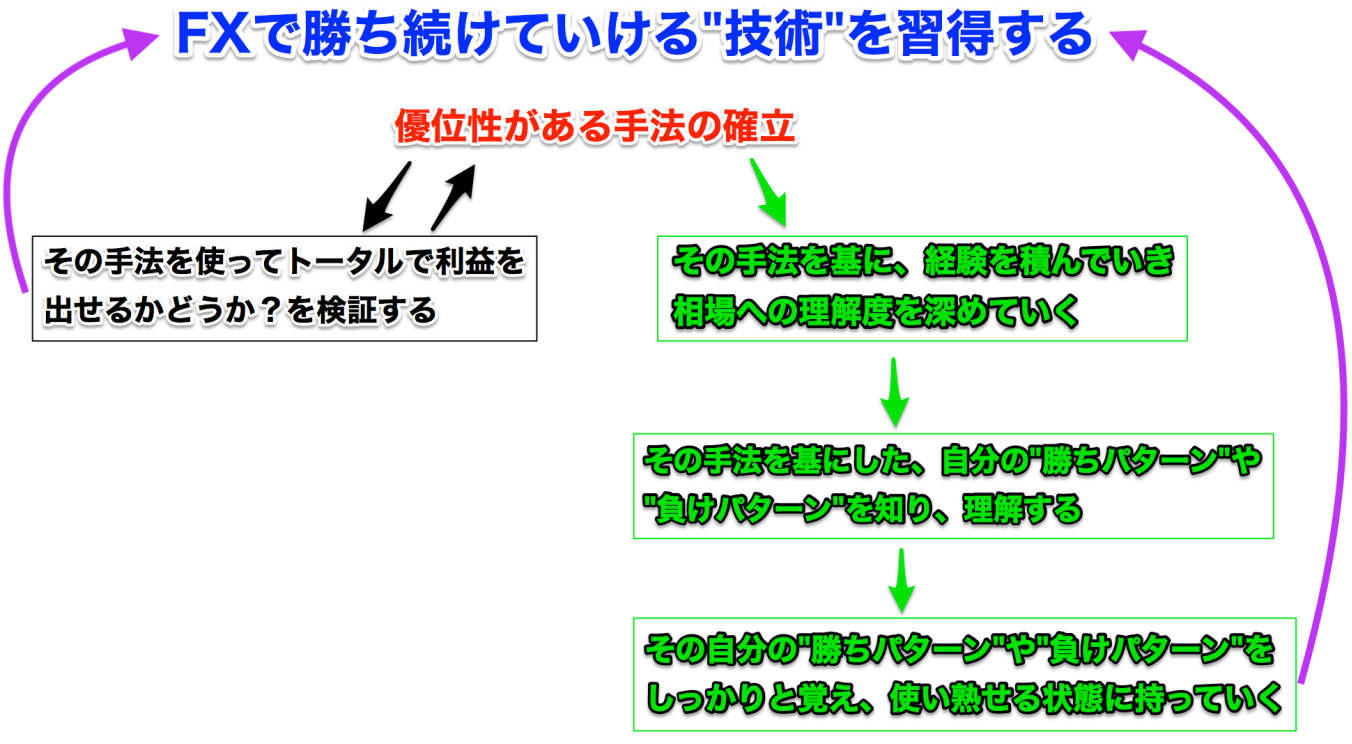
chapter３，　【「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」というトレードの仕方で、勝ちを目指していく場合の具体的の検証の仕方、考え方】

３－１，『トレードの仕方の大前提となる考え方と、達成すべき目的』

前述した通り、僕としてはどちらかというと
やはり皆さんには、「その手法が機能する相場のみでトレードする」という
トレードの仕方ではなく
今から話していく「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
というトレードの仕方のほうをしっかりとマスターしていってもらいたい
というのが本音になるので、ここからが本番と思って読み進めていっていただければと思います。

さて、ここまで話してきたことは
あくまで、「その手法が機能する相場のみでトレードする」という
トレードの仕方、考え方で勝ちを目指していく場合の、検証の仕方や考え方でしたが
ここからは、いよいよ「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」場合の
具体的な検証の仕方の説明に移っていきます。

では、今一度下記⬇の図を見てください。



今から話していく「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
というトレードの仕方、考え方で勝ちを目指し、検証していく場合の
進みべき道、順番にクリアしていく目的は
前述した通り、上の図の**『"右"の緑矢印の方向』**になります。

こちらの「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
というトレードの仕方、考え方で検証を行っていく場合
まず、「優位性のある手法を確立する」という、一番初めのステップと言いますか
スタートラインは前述した「その手法が機能する相場のみでトレードする」場合と
同じなのですが、そこから文字通り検証の際"やるべき"こと
というのが全く変わってきます。

この「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
というトレードの仕方、考え方で検証を行っていく場合
「優位性のある手法」を確立した後に、その手法をころころ変えるのではなく
その手法をしっかり"土台"にし、あくまでその土台の上に経験を積んでいき
「その手法、考え方を基にした相場への理解度」をどんどん深めていく。

というのが、検証をしていく上でのまず初めの目的、目標になります。

ちなみに、この「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
というトレードの仕方、考え方で検証を行っていく場合
「優位性のある手法」を確立した後に、上の画像の通り
右の緑矢印の方に進んでいき、緑枠で囲った部分の"目的"を
一つずつ達成していかなければならないのですが
この一つ一つの目的に対して「こうなれば目的達成！」
という明確なゴールなどは設定されていません。

つまり、自分がどれくらいの理解度、状態になれば目的を達したと判断できるようになり
次の目的達成に向けてステップを進めていけるのか？という部分の明確な答えがなく
こういった部分も検証を難しくさせている要因の一つなのですが
ただ、僕の経験上こういった部分に関してもある程度の"目安"となる
基準のようなものを持っているので、それについてもその都度説明していきます。

また、それと関連して先に言っておくと
この「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
というトレードの仕方、考え方で検証を行っていく場合
上の図の緑枠で囲った部分の一つ一つの"目的"を達成するためのハードルが結構高いです。

緑枠で囲った部分の全てのステップで、その目的をスムーズにはクリアできず
一度はつまづく人が大半で、今から詳しく話していく初めの目的となる
『その手法を基に、経験を積んでいき相場への理解度を深めていく』という部分も
クリアできない方も多くいらっしゃいますので

まずは、この初めのステップをしっかりクリアしつつ
順番に次のステップに駒を進めていくための検証の仕方から
詳しく説明していきますね。

３－２，『具体的な検証の仕方、相場への理解度をとにかく深めていく』

では、まず『その手法を基に、経験を積んでいき相場への理解度を深めていく』
という部分をクリアするために重要なことはというと
これは単純に**検証の"量"**になります。

つまり、その手法を確立した段階では
まだその手法という型に相場を当て嵌めた時
「どういう相場であればリスクが高く、また低いのか？」
「どういう動き方をすれば、その手法通りのエントリーの仕方で伸びていきやすいのか？」
「逆に、どういう動きをすれば伸びづらいのか？」
というような部分を分かっていない状態であることが殆どです。

（ただ、たまに手法を確立する段階で
こういった部分もしっかり理解できている方も稀にいらっしゃいますが
そういった方は、ほぼ例外なく過去にある程度のトレード歴がある方です）

なので、まずはこういった部分をしっかりと知り、理解しなければ
どんな手法やトレードの仕方を用いてトレードをしようと
安定的且つ、継続的に勝ち続けていくということは、ほぼほぼ不可能なので
まずは、そういった部分をしっかりと知り
その手法だけで勝とうとするのではなく、その手法を徹底的に自分のものにしようし
その手法を基にして、相場の様々な部分を判断できるようにならなければなりません。

要は、その手法を基にトレードした際
まずは「負けやすい場所、動き」また「勝ちやすい場所、動き」という部分を
しっかりと知り、理解していくということを目先の目的として
検証をしていくといった感じですね。

それが**『その手法を基に、経験を積んでいき相場への理解度を深めていく』**
ということになります。

で、この部分をクリアするために検証の際”やるべきこと"というのが
先ほども言ったように、検証の"量"が何よりも重要で
とにかく、FT4を回しまくって、実際の過去の相場の値動きを
注意深く集中しながら観つつ、その実際の相場の値動きから
「こういう動けば、次はこう動きやすいんだな」

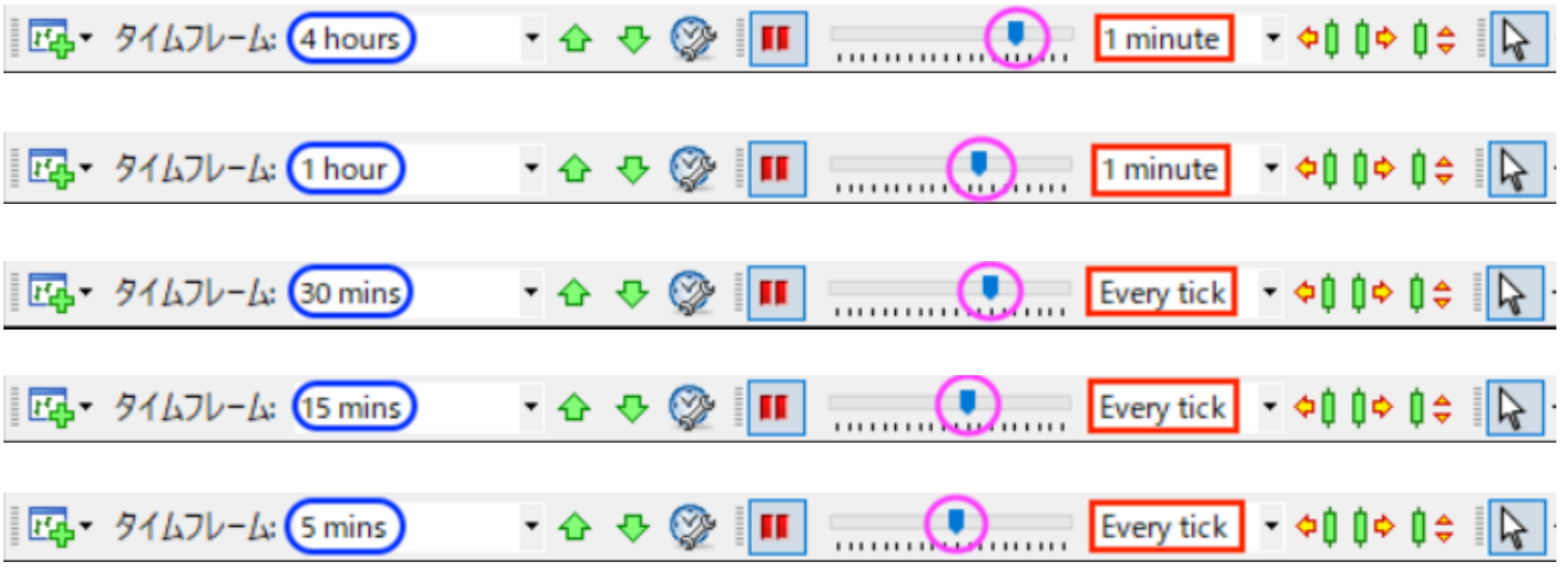
「こういう状況では相場に振られやすいから、損失に繋がりやすいな」
などをどんどん吸収していき、"相場への理解度"というものを深めていっていただきたいのです。

また、この時「次の値動きをある程度予測する」ということを
常に強く意識しながら、FT4を回していくとより効果的で
その予測した値動きが当たろうと外れようと
そういうふうな視点を持ちながら、検証していくと
あくまで僕の経験上ですが、ほぼ間違いなくそういった相場の動き方
つまり「どういう状況の中、どう動いたのか？」という部分を覚えやすくなる
と言いますか、定着率がアップします。

なので、是非検証する際は
そうった部分も強く意識しながら検証していってください。

では、具体的にこの『その手法を基に、経験を積んでいき相場への理解度を深めていく』
という部分も含めですが
この「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」場合で
検証を行っていく際の"検証スピード"はどれくらいが良いのか？というと

これも、先ほど話した「その手法が機能する相場のみでトレードする」場合と同様
検証する際に「どの時間足の相場を見ながら検証するのか？」によっても変わってくるのですが
先ほど同じように、それぞれの時間足の検証スピードの目安をまとめると
下図のような感じになります⬇



（青枠、紫枠、赤枠で囲った部分のそれぞれの役割、意味などは前述した通りになります）

上の図のように"4時間足"で検証するなら
ローソク足（レート）を進める際のベースとなる時間を"1分"に設定し
ローソク足を進める速度を調節する青いつまみを
上の画像の"紫枠"で囲った部分に持っていき

"1時間足"で検証するなら
ローソク足（レート）を進める際のベースとなる時間を"1分"に設定し
ローソク足を進める速度を調節する青いつまみを
上の画像の"紫枠"で囲った部分に持っていき

"30分足"で検証するなら
ローソク足（レート）を進める際のベースとなる時間を"Every tick"に設定し
ローソク足を進める速度を調節する青いつまみを
上の画像の"紫枠"で囲った部分に持っていき

"15分足"で検証するなら
ローソク足（レート）を進める際のベースとなる時間を"Every tick"に設定し
ローソク足を進める速度を調節する青いつまみを
上の画像の"紫枠"で囲った部分に持っていき

"5分足"で検証するなら
ローソク足（レート）を進める際のベースとなる時間を"Every tick"に設定し
ローソク足を進める速度を調節する青いつまみを
上の画像の"紫枠"で囲った部分に持っていく。

といった感じの検証スピードが
この「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」場合の
だいたいの目安になってくるかなといったところになります。

そして、上の図を見たときに気づいた方も多いかと思いますが
この「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」場合の
検証スピードは、先ほどの「その手法が機能する相場のみでトレードする」場合と比べて
"遅め"になっています。

なぜか？

それは、この「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」場合というのは
文字通り「一つの手法、トレードルールを土台にしその上でその手法を基にして
その時々の相場に合わせて、要は自分が相場に合わせて臨機応変にトレードしていく」
というようなトレードの仕方になるので
そもそも、その検証の目的というのは相場そのものの値動き
つまり「どういう相場でどういう動きをすれば、次にどう動きやすいのか？」を理解し
その手法を使ってトレードする際「勝ちやすく、負けにくいポイント」を

しっかり自分自身が"**知っている状態**"に持っていくためになります。

この「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」場合で
きっちり安定的に勝ち続けていくためには
先ほども言ったように”**その時の相場の動きに合わせた判断**"というのが
必須になってくるからなんですよね。

だからこそ、この「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」場合
というのは、検証スピードをできる限り落とし、実際の相場の値動きにできる限り近づけて
そして常にリアルを意識しつつ、一つ一つの値動きを丁寧に観ながら
それを自分の頭にしっかりとインプットしていき"相場の動き方の理解度"というものを
深めていかなければならないのです。

なので、そういった意味では検証スピードは遅ければ遅いほど
より実際の相場の値動きに近くなり、リアルの値動きを体験できるため
本当は検証スピードはそちらの方が良いのですが
ただあまりに遅すぎると、次は極端に効率が悪くなってしまい
十分な経験を積むのにかなりの時間が掛かってきてしまうので
そこまで遅すぎることなく、且つ効率的に経験を積んでいくとなると
僕がこれまで試行錯誤してきた中では、上の図の検証スピードほどがベストになってきます。

もちろん、この「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」場合の
検証スピードについても、あくまで"目安"になるので、実際にこの検証スピードで検証をしてみて
少し早いと感じたり、逆に遅いと感じたりする場合は、先ほども話したように
個々で検証スピードを微調整し、自分にとってベストな検証スピードを探していってください。

ただ、この検証スピードよりも明らかに遅くしすぎたり、早くしすぎたりすると
必要以上に時間が掛かってしまったり、検証の"質"が極端に下がってしまったりと
逆効果になるので、あくまで青いつまみを軽く移動させるくらいの"微調整"に
留めておいてください。

ちなみに、上の図の検証スピードで検証すると
初めのうちは「遅すぎる、、、」と感じる方もいらっしゃるかもしれませんが
検証は、本当に真剣にやるのであれば遅すぎるくらいが丁度良く
（一つ一つの値動きを丁寧に覚えていけるから）
また、上の図の検証スピードでも実際の相場で値動きが進むスピードの
大体"20～30倍"ほど早く進められるので、実はこの検証スピードでも
かなり効率よく経験を積んでいけます。

なので、効率に関しては、決して悪くないと思っていただいてOKです。

今言った通り実際の相場で値動きが進むスピードの大体"20～30倍"ほど早く進められるので
単純計算すると『リアルタイムの相場を約１ヶ月監視した際に得られる経験値と

同等の経験値をたった１日（１日検証するだけ）で得ることができる』
というようなイメージで考えてください。

では、少し話を戻しますが
検証する際のまず初めの目先の目的となる
『その手法を基に、経験を積んでいき相場への理解度を深めていく』というステップを
"達成できたと判断できる目安"について
つまり、どういう状態になれば次のステップに進んでいけるのか？というと
これは、先ほども言った通り明確な判断基準のようなものはないのですが
あくまで"目安"として言うならば**「そこから先の相場の波の動き方をイメージできているか？」**
という部分が大きな目安の基準になってきます。

この部分は、その人の感覚的な部分にもなってくるので少し難しいのですが
要は、**「常に先の相場の波の動き方のイメージを持てている状態」**であること。

これが、『その手法を基に、経験を積んでいき相場への理解度を深めていく』という
ステップを達成したと判断できる、一つの目安になります。

ただ、この「常に先の相場の波の動き方のイメージを持てている状態」というのは
その先の相場に対して、自分が持っている波の動き方のイメージが的中しなければならない
ということでは決してないので、その点はご安心ください。

重要なのは、自分が持っている波の動き方のイメージを的中させることではなく
文字通り、ごく自然に「常に先の相場の波の動きイメージをできているか？」
という部分です。

また、この時"ごく自然に"という部分が
結構大事なポイントで、無理に「ここからこう動くだろうか？」ということを
頭で考えるのではなく、あくまでごく自然に
「こういう相場の場合、次はこういう波を描いて、こう動く可能性があるな」
「ここから、こういう動きになれば狙っていきやすいな」など
特に意識せずとも、ここから先の相場の波のイメージを
常に勝手に頭の中に描けている状態であることが大事です。

自然に先の相場の波の動きを常にイメージするには
当然、そもそもそのイメージの素となる相場の動き方を知っていなければ出来ず
それを知っていなければ、先の相場の波のイメージというのもできないので

だからこそ、自然に先の相場の波の動きを常にイメージできている状態は
即ち、相場そのものの動き方がある程度理解できているということが言え
『その手法を基に、経験を積んでいき相場への理解度を深めていく』という目的を達成した
と判断できる一つの目安になるのです。

なので、この段階では、「勝率がどれくらいなのか？」
「どれくらいのpips数を取れているのか？」
また「勝てているのか？負けているのか？」などは気にせずとも全然OKです。

この段階で重点を置くべきは
そういった"成績"でも"トレードの内容"などでもなく
あくまで、**「相場そのものの動き方、波の形成の仕方などを徹底的に知り、理解する」**
という部分になるので、この段階ではそういった"成績"や"トレードの内容"などは一旦度外視して
とにかく「相場そのものの動き方、波の形成の仕方などの理解度を深める」
ということに注力していってください。

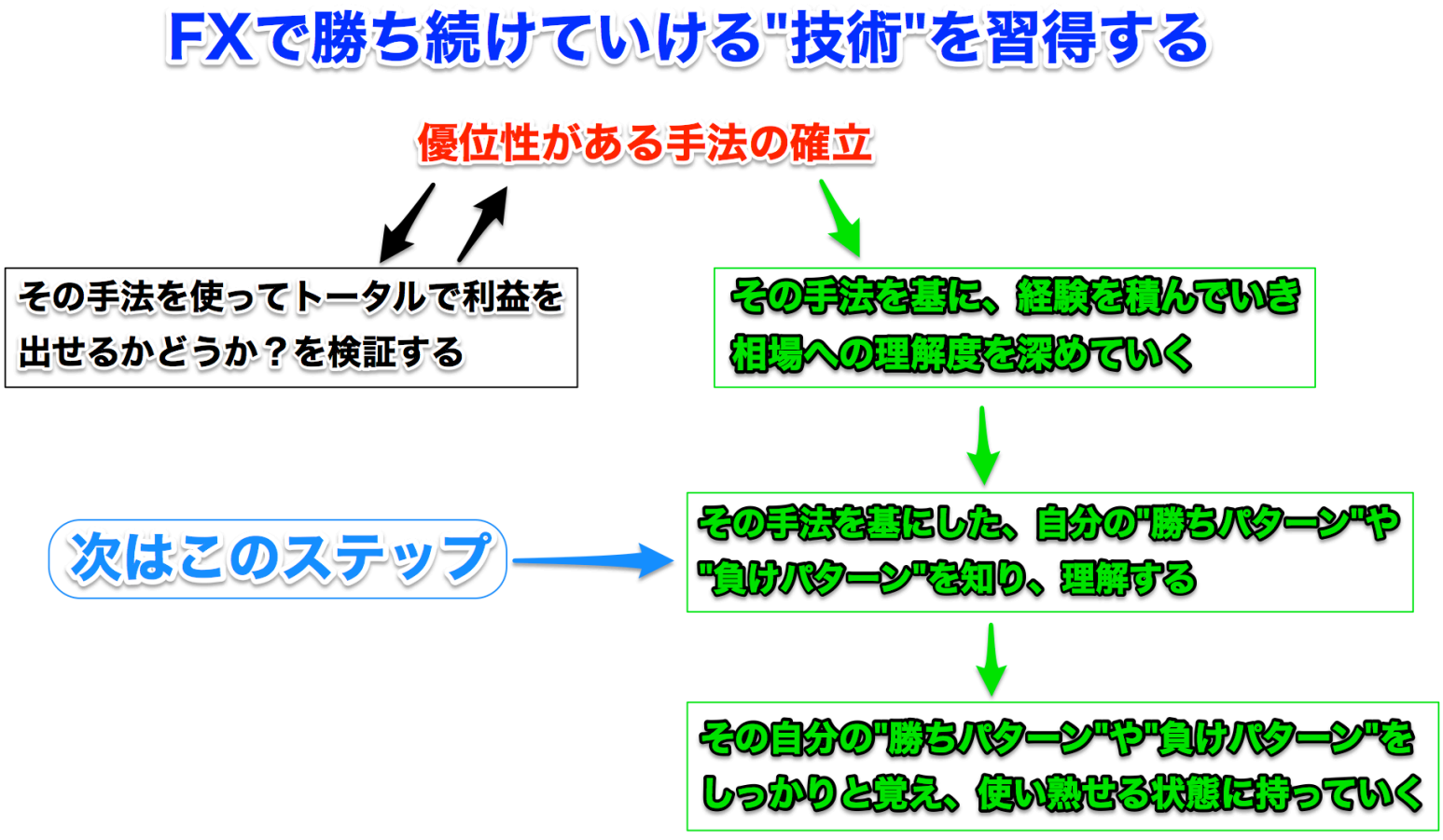
また、自然にそういった波の動き方のイメージを持てていないうちは
まだまだ相場そのものの動き方、波の形成の仕方などの理解度が足りていないと言えるので
そういった方は、この目的を達成するまではひたすら今話したような視点をしっかり持って
検証し、経験を積んでいくのみです。

ちなみに、言うまでもなくこの初めの目的を達成するまでは
その先に進めないと言いますか、仮にこの目的を達成できていない状態で
焦って無理に次のステップに進もうとしても
そもそも土台となる相場そのものの動き方、波の形成の仕方などの理解度がまだ浅い状態
つまり、まだその土台が固まっていないからこそ
次のステップに進んでも、必ず壁にぶち当りこのステップに戻ってくるはめになるので
この『その手法を基に、経験を積んでいき相場への理解度を深めていく』という
ステップを達成できていないなと感じる方は
まずは、焦らずにしっかりと相場そのものの動き方、波の形成の仕方などの理解度を深めていき
この初めのステップを確実にクリアしていってください。

３－３，『相場の動きを”パターン化"させ、それをインプットしていく』

というわけで、『その手法を基に、経験を積んでいき相場への理解度を深めていく』というステップをクリアすると
次の『その手法を基にした自分の"勝ちパターン"や"負けパターン"を知り、理解する』
という目的を達成するためのステップに駒を進めます。

つまり、この下記の図の２番目のステップですね⬇



次のステップである
『その手法を基にした自分の"勝ちパターン"や"負けパターン"を知り、理解する』
という部分についてですが、これはどういうことかというと、、、

まず、このステップに進むということは
先ほどの『その手法を基に、経験を積んでいき相場への理解度を深めていく』

という第一のステップをクリアしたということなので
そうなれば、当然ある程度相場そのものの動き方、波の形成の仕方などの理解度が
深まっている状態だと言えます。

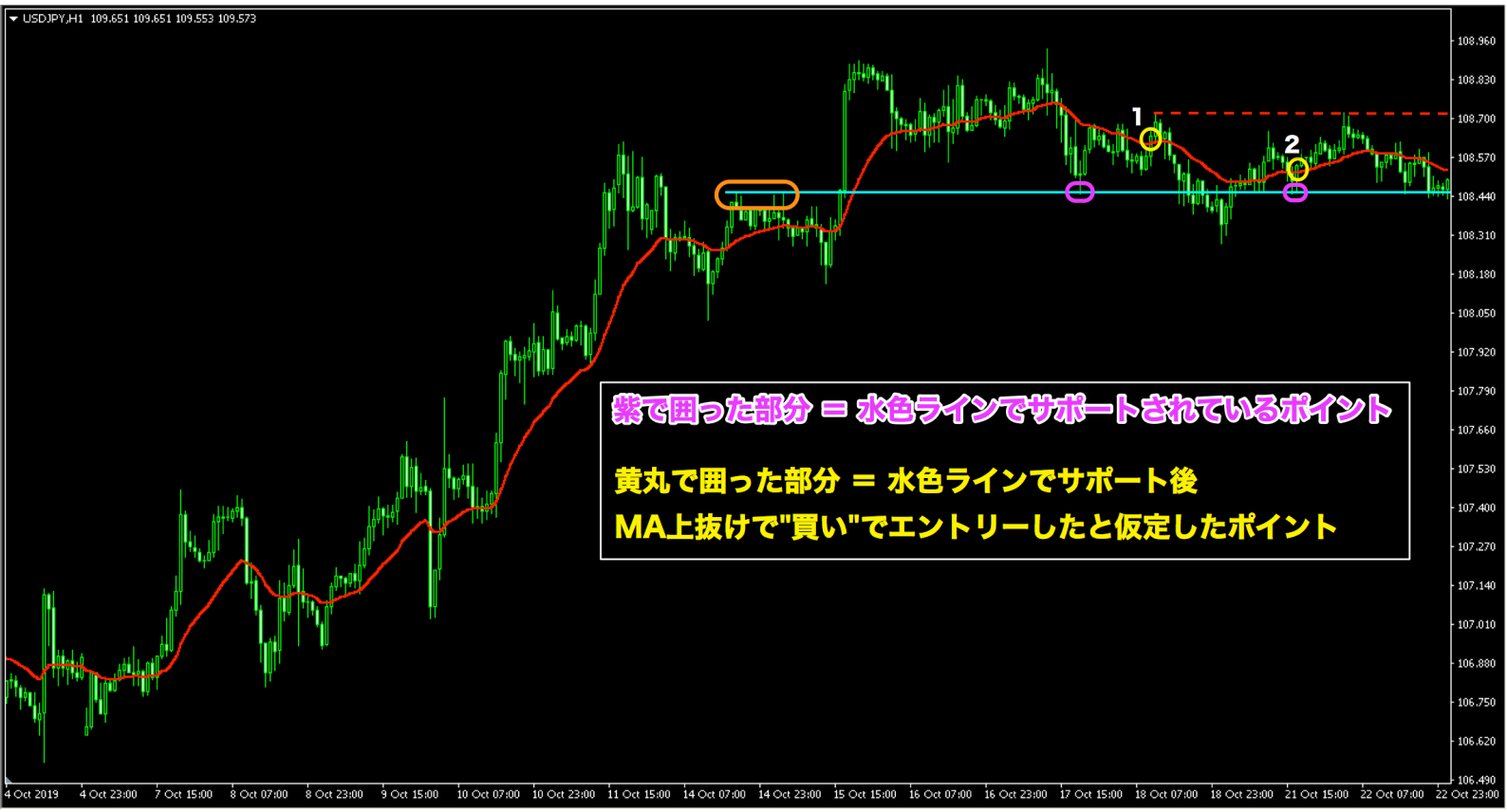
つまり、先ほども言ったように
「先の相場の波の動き方のイメージができている状態」ですね。

なので、数あるその相場の波の動き方の中から
"伸びていきやすい波の動き方"、逆に"伸びていきづらい波の動き方"を選別し
自分にとっての"勝ちやすいパターン"と"負けやすいパターン"を知る
というのが、このステップでやるべきことになります。

要は、前回のステップでイメージできるようになった"波の動き方"の
さらにその先の「その波の動き方をすると、その後はどういう動きに発展しやすいのか？」
という部分を具体的に知っていく。
そして、その波の動き方の中で「これは伸びていきやすい」という波の動き方を
選別していきましょう、ということですね。

では、具体的にどのようにして
"伸びていきやすい波の動き方"、"伸びていきづらい波の動き方"を知り
それらを区別していくのか？というと
これは、やることとしてはそれほど難しいものではなく
単純に、後付けでもOKなので"伸びていった波の動き方"や"伸びていかなかった波の動き方"を
"パターン化"していく、という作業をがんがんしていくのです。

例を出すと、⬇のような相場があったとします。



あくまで、一つの例として
上の相場は、ある時の「ドル/円」の1時間足のチャートなのですが
上の画像のような相場で、水色ラインが意識されているので
この水色ラインを利用して、水色ラインでサポート後（紫枠で囲った部分）
MA上抜けの黄丸で囲った部分で、２回”買い"でエントリーしたとします。

１度目のエントリーポイント（黄丸１）は伸びていかずに下げてきて
水色ラインを下抜けいったので、損切りに
２度目のエントリーポイント（黄丸２）も、そこまで大きくは伸びていかなかったものの
赤点線の直近では割と目立つ高値までは伸びていった。

というような結果になりました。

ここで、重要なのは「勝ったのか？負けたのか？」といった結果などではなく
「１度目のエントリーポイント（黄丸１）に繋がる波の動き方は伸びていかない動きなんだな」
逆に
「２度目のエントリーポイント（黄丸２）に繋がる波の動き方は少し伸びていく動きなんだな」

というような視点を持ち
「その波の動き方ではその後どうなるのか？、またどうなりやすいのか？」を
先ほども言ったように、一つずつ"パターン化"していくということになります。

（ただし、実際には一つの時間足のみではなく
複数の時間足も含めて、そういった波の動き方を捉えつつパターン化していく必要があります）

そして、その後この時の相場はというと、⬇のような動きになったのですが、、、

その後、上の画像のように
新たにオレンジ枠で囲った部分に"黄ライン"が引ける相場になり
その"黄ライン"で２度サポートされてから伸びていく、というような動きになったのですが
こういう動きになったらなったで、先ほどと同じように
『こういった相場状況の中、この黄ラインに対して、こういった波の動き方をすれば
そこから伸びていきやすいパターンになる』
だから、こういった場合は黄丸付近で"買い"エントリーするのが良い。

というようにして、一つのパターンとして
自分の中にしっかりインプットさせていくということが、重要になってくるのです。

よく、検証段階で「この場合はなぜ伸びて、この場合は伸びないんだろう？」や
「どのポイントに注目すれば、伸びない動きを回避できるのだろう？」などといった
「相場に対してなぜそういう動きになるのか？」という"理由"を考え、探し
時には、無理やり"伸びないこと"に対して理由をこじ付け
「伸びないのはこういう理由だからだ」、また「伸びるのはこういう理由だからだ」と
目の前の自分が理解できない動きに、明確な答えを見つけようとする方がいらっしゃいますが
これははっきり言って、間違いです。

間違いと言いますか、そういった伸びる理由や伸びない理由を考えるのは
ナンセンスで、且つそういった理由は考える必要性があまりないのです。

そもそも伸びる理由も、伸びない理由もそんなものは
正確には誰にも分かりませんし、膨大な大衆心理で動いている相場に対して
そういった"正しい理由"を知る術もありません。

なので、「なぜこの場合は伸びて、この場合は伸びないんだろう？」
というような部分に対して、その理由を考える必要などは全くなく
本当にただシンプルに"そういうチャートの画だから伸びる"
"そういうチャートの画だから伸びない"というように考えていかなければならないのです。

つまり、その時の相場の流れ、動き方、形など
そのチャート上で判断できる全ての要素を含めて
その時のチャートを"一つの画"として捉えた上で
「このチャートの画は伸びる画」「このチャートの画は伸びない画」
というように判断していってもらいたいのです。

この部分について、結構勘違いしてしまっている方が多く
例えば、「自分が伸びる動きと思っていたのに、実際には伸びなかった」
というような場合などは
特に、自分が伸びると思っていただけに、どうしても「なぜ伸びていかなかったのか？」
という理由を探し、自分が納得できるようなそれに対する"答え"を欲してしまいますが

こと相場において、その考え方を持ち込んでしまうと
本当はその理由が正解ではないのに、自分が納得したいがために
無理やり間違った理由をこじ付けてしまい、あたかもそれが"正しい"というふうに
無意識に認識してしまったりすることもあるので
くれぐれもそういった考えをしないように気をつけていただきたいです。

人間は目の前で納得できないようなことが起こると
心理的にどうしても、自分が納得できるような答えを探してしまうものですが
先ほど言ったように、**「伸びないのはそういうチャートだから」**
「伸びるのはそういうチャートだから」
それが答えと言いますか、それで"完結している"と考えてください。

ちなみに、そういった感じで"波の動き"をしっかりパターン化していくと
そのパターンでエントリーした場合「どこで利確するのが適切なのか？」という
"ベストな利確ポイント"などの部分も自然に分かるようになっていきます。

というふうにして、検証をしていきつつ
今言ったようにチャートを"一つの画"として捉え
"波の動き方"をどんどんパターン化していっていただきたいのですが
この時、同時にそのパターン化したものを保存しておくことも
絶対に忘れないでいただきたいです。

つまり、「こういう動き方は伸びないな」「こういう動き方は伸びるな」
という部分を知り、せっかくパターン化しても
（この辺は次のステップになりますが）それをしっかり覚えて
そのパターンを使いこなせなければ意味がないので
その所謂「波の動き方のパターン」をしっかり保存し
いつでも見返せる状態にしておいてください。

これは検証をする際に、必ずやってもらいたい部分になります。

この「波の動き方のパターンの保存」をやるのとやらないのとでは
本当に吸収率が変わり、ひいては勝てるようになるまでの期間も全く変わってくるので
この「波の動き方のパターンの保存」というのは、必ずやっていただきたいです。

では、具体的にその「波の動き方のパターンの保存」は
どういうふうにしていけばいいのか？というと
これは、各々が一番やりやすい形でOKなのですが、僕のオススメとしては、、、

その時の”波の動き方のパターン”をキャプチャーし、そしてそれを印刷して
”紙媒体”として保存する、というようなやり方になります。

僕も、この保存方法に関しては
画像のままにしてみたり、動画にしてみたりと
過去にいくつかの方法を試しましたが、こういうふうに
「波の動き方のパターン」を一つずつ印刷して
そしてそれを見返していくのが、一番吸収しやすい形でした。

これは、僕だけかもしれませんが
その「波の動き方のパターン」を画像や動画のみで保存した場合
どうしても少し面倒になるからなのか、あまりそれを積極的に見返そうとは思わず
実際、その「波の動き方のパターン」などの吸収率含め
得られる経験値としてはあまり多くありませんでした。

が、画像や動画などの、所謂デジタル状のまま保存しておくのではなく
そこから印刷をし、紙媒体にして常に手元に置いておくことで
すぐにその保存したものを見返せるからなのか、それらを見返す頻度が上がり
画像や動画などのまま保存する場合と比べて、明らかに色々なものの吸収率が上がりました。

つまり、同じ検証時間でも画像や動画などのまま保存する場合と比べて
それらを印刷をし、紙媒体にして常に手元に置いておくことで
より色々な数多くの"波の動き方のパターン"を覚えやすく
且つ、それらのパターンをしっかり深くまで理解しやすくなったので
是非、印刷し紙媒体でしっかり保存していくことをオススメします。

とはいえ、この「波の動き方のパターンの保存」という部分に関しては
その人に合う合わないもあるかなと思うので、自分が一番その保存したもの
気軽に何度も見返しやすいというやり方でOKです。

そういうふうにして、どんどん"波の動き"をパターン化していくと
「このパターンは前にも見たぞ」というような感じで、同じようなパターンが出てくることが
多々あるのですが、同じようなパターンが出現した時はそのパターン同士でまとめる
という部分も非常に重要な作業になってきます。

そうして、同じようなパターンのいわばサンプルのようなものが増えていくと
「この○○のパターンは、１０回中２～３回は伸びていかないけど
大体７～８回は伸びていくな」
や
「この▲▲のパターンは、１０回中３～４回程しか伸びていかないな」

といった部分が分かるようになってきます。

そうなれば、"伸びていきやすいパターン"と"伸びていきづらいパターン"の区別も
はっきりとできるようになっていくのです。

なので、そういった意味では
そういった同じようなパターンのサンプルをどんどん増やしていくと
「**そのパターンは伸びていきやすいのかどうか？**」という部分も分かるようになり
ここまできて初めて、その１つのパターンを本当の意味で理解した
ということが言えます。

そして、そういうふうにして"伸びていきやすいパターン"と"伸びていきづらいパターン"が
分かるようになってくれば、それらをきっちりと明確に分け
「伸びていきやすいパターンはこっち」、「伸びてきづらいパターンこっち」
というふうに別々にファイリングし、整理していく。

ここまでが、『その手法を基にした自分の"勝ちパターン"や"負けパターン"を知り、理解する』
というステップでやるべきことになります。

では、どういう状態になれば
この『その手法を基にした自分の"勝ちパターン"や"負けパターン"を知り、理解する』
というステップをクリアしたと判断でき、次のステップに進めるのか？というと、、、

先ほども言ったように、このステップに関しても"クリア"という概念はありません。

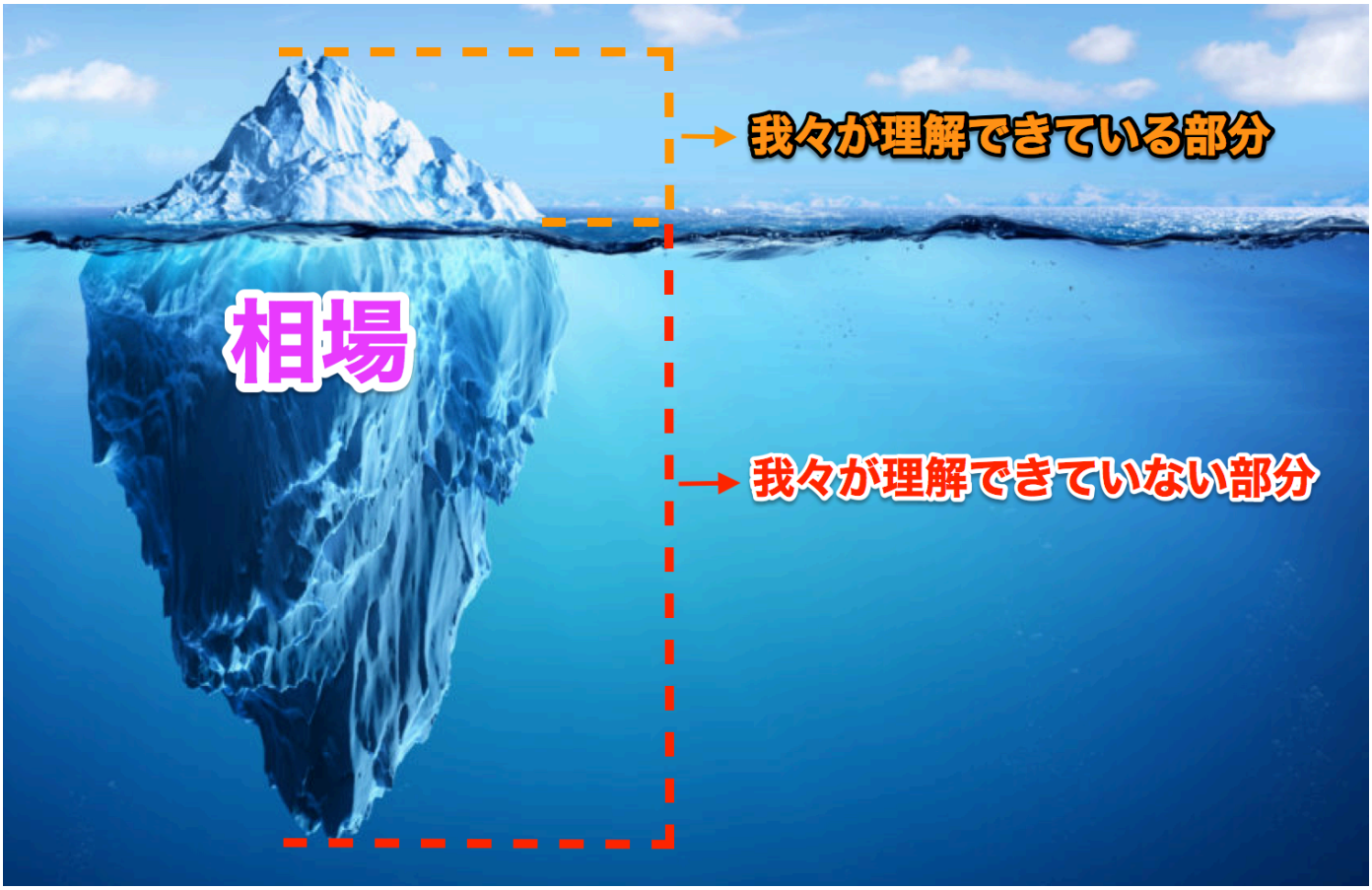
どういうことかというと、ある程度経験がある方なら分かると思いますが
そもそも"相場"というのは、本当に無数のパターンが存在しており
その全てのパターンを理解するなど、とてもじゃないけどできません。

もちろん僕もそうですが、FXで勝ち続けている人だからといって
当然、相場の全てのパターンを把握しているというわけではありませんし
今言ったように、そもそもそういった全てのパターンを把握するのは不可能なのです。

"勝てている"からといって、そういったパターン然り
「全て理解している」というわけではないのです。

僕自身、経験が長くなればなるほど、つくづく感じるのですが
相場というのは、どこまでいっても底が見えることなく本当に奥が深いもので
勝ち組といえど、理解している部分は言うなれば本当に"氷山の一角"です。

イメージとしてはこんな感じです⬇



おそらく勝てているトレーダーのほぼ全てはそうだと思うのですが
勝ててはいるものの、まだまだ分からないことや理解できない部分は全然多いのです。

それこそ、上の画像のようにむしろ"理解できていない部分"の方が多いのですが
だからといって、相場の全てを理解しようとする必要は全くなく
その"氷山の一角"をしっかり深くまで理解していけば
FXというのは、それだけで十分勝ち続けていけるものなんですよね。

なので、この『その手法を基にした自分の"勝ちパターン"や"負けパターン"を知り、理解する』
というステップに関しても、そもそも全てのパターンを知ることはできないと言いますか
"ゴールがない"というような感じで考えてください。

僕自身、自分で言うのもなんですが
「もうこれ以上伸びて行きやすいパターンはないだろう」と言えるほどの
多くのパターンを覚えたつもりなのですが、それでも日々トレードし続けていく中で
「お、このパターンも伸びていきやすいな」と
自分が今まで知らなかった新しいパターンが見つかることが定期的にあり
どこまでいっても、いつも必ず"自分が知らないパターン"というのが出てきます。

それは、経験を積んでいくうちに無意識に相場を見る視点が変わり
今まで意識しなかった部分を、自然に意識するようになったからだと感じているのですが

（これは、もちろん自分自身がより相場に合わせて最適化されていっている
ということなので良い傾向です。）

つまり、この『その手法を基にした自分の"勝ちパターン"や"負けパターン"を知り、理解する』
というステップに関しては、僕自身もまだ完全にクリアしたとは言えず、実際どこにゴールがある
のかも分かりません。

ただ、先ほども言ったようにそもそもそういったパターンなどは
全て知る必要もなく、ある程度のパターンをしっかり覚え、それを自分のものにすれば
全然勝ち続けていけるのです。

だからこそ
この『その手法を基にした自分の"勝ちパターン"や"負けパターン"を知り、理解する』
というステップに関しては、未達成でも全然OKなのです。

なので、この部分については
ある意味、**"永遠の課題"**くらいに考えてください。

とはいえ、この『その手法を基にした自分の"勝ちパターン"や"負けパターン"を知り、理解する』
というステップのところで、ず～っと止まっていても次に進めないので
一応、「とりあえずこれだけできればこの次のステップに進んでもOK」という"目安"でいうと
大凡**「最低でも２０種類ほどの伸びていきやすいパターン」**をしっかり見つけることができれば
取り敢えずは次のステップに進んでいってもOKです。

どうでしょう？

覚えるパターンの数としては、それ程多くはないですよね。

もちろん、そういった"伸びていきやすいパターン"というのは
多ければ多いほど"トレード回数の増大"と共に"利益の増大"も見込めるので良いのですが
それでも、大体**「２０種類ほどの伸びていきやすいパターン」**をしっかりと自分のものできれば
それだけで取り敢えずは、もちろんその時の相場にもよるものの平均すると
月に200pips前後くらいは安定して取り続けていくことはできます。

つまり、それで晴れて"勝ち組"の仲間入りができるということですね。

なので、そういった意味では"勝ち組"と"負け組"を分けているのは
もちろん色々な要素がありますが、実はそれほど大きなものではなく
「伸びていきやすい相場の動き方、つまりそのパターンを知っているかどうか？」
この部分が、勝ち組と負け組を分けているかなり大きな要因になってくる
ということが言えます。

それもそのはずですよね。

単純に考えれば、"伸びていきやすいパターン"というのをある程度知っていれば
その”伸びていきやすいパターン"が出現した時だけトレードして
それ以外は一切トレードしなければ、必然的にトータルではプラスに持っていける筈です。

とはいえ、そうはいっても
実際に「伸びていきやすいパターン」を見つけ、知っていくというのは
それなりに難しいと言いますか、決して一筋縄ではいきません。

だからこそ、"勝ち組"の方が圧倒的に少ないのですが
そういった"伸びていきやすいパターン"というものを
たった一つ自分のものにするだけでも、実際にところ結構な"労力"と"時間"を要します。

何故なら、ここまでの話を聞いてくださった方は分かると思うのですが
「そのパターンが伸びていきやすいのかどうか？」という部分を知るためには
そのパターンと同じようなパターンのサンプルを一定数集めて
"統計"を取らなければならないからなんです。

相場の性質上、「この動き方は伸びていくんだな」
「じゃあ、これを○○のパターンと認識しよう」というふうに
仮に、その動き方をパターンとして捉えても
「その○○のパターンは、たまたまその時は伸びていった」という結果になっただけ
という可能性も十分にあり、そのパターンが本当に伸びていきやすいかどうか？というのは
そのたった一回の出現だけでは、分からないのです。

もしかすると、10回のうち9回は伸びていかないけど1回は伸びていく
という、その1回がその時たまたま来ただけの可能性も全然あります。

また、逆に10回のうち6〜7回は伸びていくパターンの可能性も
もちろんあります。

なので、今言ったようにそのパターンを２、３回発見しただけでは
「そのパターンが果たして伸びていきやすいパターンのか、そうでないのか？」が
分からないんですよね。

だからこそ、そういったパターンが本当に伸びていきやすいパターンなのかどうか？
という部分、つまりそのパターンの"期待値"を知るために
そのパターンの統計をきっちりと取っていく必要があるのです。

そうすれば、そういったパターンの期待値
「そのパターンは本当に伸びていきやすいパターンなのかどうか？」
という部分がしっかりと見えてきます。

なので、こういった部分も
そのパターンの効果と言いますか、本当の意味でそのパターンを理解し、使い熟し
そしてリアルタイムの実際の相場で、自信を持ってエントリーしていくしていくためにも
間違いなく重要な部分になってくるのですが
では、肝心の「その一つのパターンに対して、一体どれくらいの統計を取ればいいのか？」
という部分についてですが、、、

これは僕の経験上なのですが
大体一つのパターン毎に、そのパターンと同じようなパターンをサンプルとして
２０前後ほどの数があれば、大体"そのパターンの有効性"が分かります。

つまり、そのパターンと同じような（似た）パターンを20前後サンプルとして集め
その中で、もし（20回中）15回伸びていったのなら、そのパターンを使ってエントリーした際の
単純な勝率的には”75%"となり期待値は高く、そのパターンは伸びていきやすいパターン
と言えるし

逆に、（20回中）8回しか伸びていかなかったということであれば
そのパターンを使ってエントリーした際の単純な勝率的には"40%"となり
期待値は低く、そのパターンは伸びていきづらいパターン
要は、「実際のトレードでは使えないパターン」になる。

というような部分が必ず分かるようになってきます。

ここまでの話を一度まとめると、、、

まずは、確実に波の動き（相場全体の動き、複数時間足も含めた）を
一つずつ”パターン化”していく

⬇

そして、それらのパターンと同じようなパターンを
一つのパターンにつき、大体20前後の数をサンプルとし、統計を取っていくイメージで
「そのパターンが本当に伸びていきやすいパターンなのか？」を知り、理解していく

⬇

「実際のトレードに使っていける"伸びていきやすいパターン"」と
「実際のトレードでは使えない"伸びていきづらいパターン"」というのが
はっきりと区別され、認識できるようになってくるので
まずは、その「伸びていきやすいパターン」を大体20種類ほど構築する。

これが、この『その手法を基にした自分の"勝ちパターン"や"負けパターン"を知り、理解する』
というステップで、やるべきことと、その順序になります。

ちなみに、この時「まず一つの波の動き方をパターン化し
そのパターンと同じようなパターンを20前後探し、集めていこう」といった感じで
要は、一つのパターンを覚えてから、次のパターンへ、、、
というふうにそのパターンを覚えてから、また別のパターンに取りかかる
といった方法ではなく、複数のパターンを同時にやっていった方が効率は格段に上がります。

検証をしていると、必ず「伸びていった」という場面に出くわすはずです。
その「伸びていった」という部分に出くわしたら
「この波の動き方はAのパターンにしよう」
「そしてこの波の動き方はBのパターンにしよう」
「またここでも伸びていったから、この波の動き方はCのパターンにしよう」
というようにして、”伸びた部分"があればその部分の波の動き方を
その都度、どんどんパターン化していく感じで
常に複数の波の動き方を同時進行で、複数のパターン化にしていき
「Aのパターンは出現しないかな、、、Bのパターンは出現しないかな、、、
Cのパターンは出現しないかな、、、」といった感じで
常に同時進行で、複数のパターンのサンプル（20前後ほどのサンプル）を
集めていっていただきたいです。

（この時、混乱することが多々あると思うので
そういった場合は、ノートなどに「どの波の動き方はどのパターンなのか？」を
書き出しておくと、整理しやすくなります）

そういった検証の仕方のほうが、先ほど言ったように
格段に効率が良く、より短時間で様々なパターンを集め、覚えていくことができます。

といったように
この『その手法を基にした自分の"勝ちパターン"や"負けパターン"を知り、理解する』
というステップで、やるべきことはこういった感じになります。

何度も言うように、このステップでは
とにかく「波の動きをパターン化」➡「そのパターンが伸びていきやすいのか？を知る」
という部分が重要、且つ"肝"になってくるので
がんがんそういった部分に注力して、検証していっていただきたいと思います。

とりあえず、<u>「20種類の伸びていきやすいパターン」</u>を構築できれば
それだけで、冗談抜きで本当に前述した通り「勝ち続けていける技量はある」と言えるので
楽ではありませんが、まずはそれを一つの目標として
気合いを入れて頑張っていってもらいたいです。

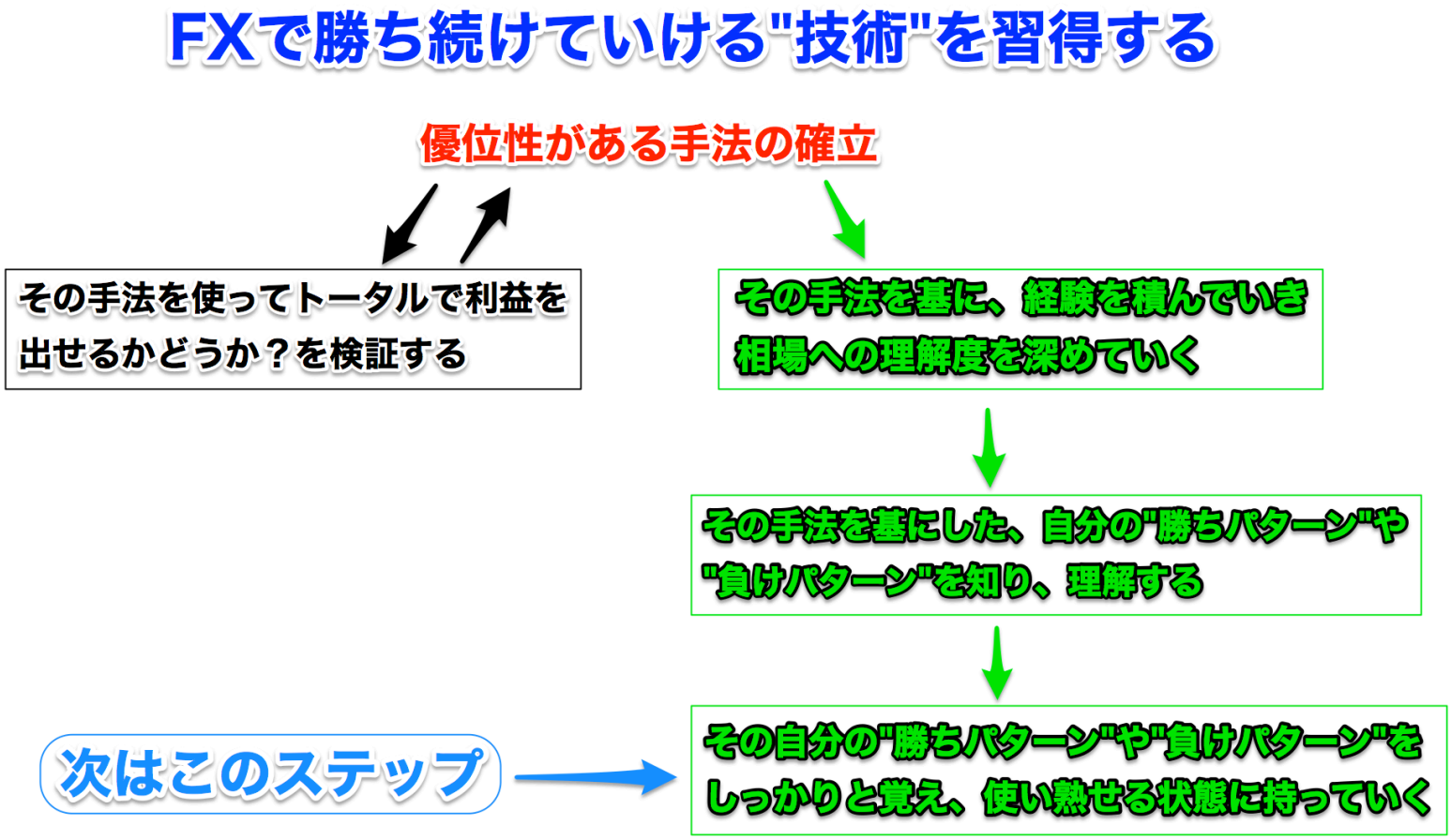
もちろん、先ほど言ったようにこのステップにゴールはないので
「20種類ほどの伸びていきやすいパターン」をしっかりと覚えることができれば
次は50種類、100種類、300種類とどんどん自分が使える"伸びていきやすいパターン"を
覚えていくことにチャレンジしていってください。

先ほども言ったように
基本的に、伸びていきやすいパターンをより多く知っている方が
それに比例して、トレード回数と利益が同時に増大していくので
デメリット等は一切なく、本当に良いことしかありません。

ということで、大凡「２０種類ほどの伸びていきやすいパターン」を見つけ
ストックすることができれば、先ほども言ったように
取り敢えずは次のステップに進んでいけます。

３－４，『”勝ちパターン”をリアルトレードでしっかり使いこなせる状態に持っていく』

さて、このステップが、いよいよ最後のステップになるのですが
次の最終ステップは、下記の図の３番目のステップですね⬇



次は、上の図にもある通り
『その自分の"勝ちパターン"や"負けパターン"をしっかりと覚え、使い熟せる状態に持っていく』
というステップになります。

このステップに進むということは
１番目のステップである「相場の動き方の理解度」というものも十分に深まっており
２番目のステップである「２０種類ほどの伸びていきやすいパターン」も
しっかり見つけることができており、このステップに進むという時点で
既にかなり勝ち組に近い状態と言えます。

なので、この『**その自分の”勝ちパターン"や"負けパターン"をしっかりと覚え**
使い熟せる状態に持っていく』
というステップは、いわば今までの仕上げのようなものになり
これまでのステップと比べると、それほど苦ではありません。

これまでのステップと比べると、このステップでやるべき事は結構"楽"だと思います。

では、この『その自分の”勝ちパターン"や"負けパターン"をしっかりと覚え
使い熟せる状態に持っていく』
というステップでやるべき事とは？というと、、、

先ほどの"２番目のステップ"とも少し被ってくるのですが
このステップでは、先ほどの”２番目のステップ"で見つけたパターンを覚え、しっかりと記憶し
そして、実際のトレードに使える状態に昇華させていく
ということが主な目的になります。

ここまでくれば、先ほどの２番目のステップのところで
「**伸びていきやすいパターン**」と「**伸びていきづらいパターン**」を
ある程度の種類知っている状態だと思います。

当然、それらを知っていたり、ストックしておくだけでは
それらのパターンを使いこなせているとは言えません。

「伸びていきやすいパターン」や「伸びていきづらいパターン」を
知る事が出来たのなら、次はそれらのパターンをしっかりと自分の頭に中にインプットし
リアルタイムの相場で、そういったパターンが出現すれば
いつでもそのパターンを頭の中から引き出し
瞬時にそのパターンを使ってエントリーに繋げていける状態に持っていかなければなりません。

つまり、これまでストックした
「伸びていきやすいパターン」や「伸びていきづらいパターン」を
"頭の中の引き出し"にしっかりと保存していく作業が必要なのです。

イメージとしては、そのパターンの形成途中に
「ここからこう動けばこの〇〇の伸びていきやすいパターンが完成するから
そうなればこういうふうにエントリー出来るな」という視点で相場を見れている状態が
ベストです。

そのパターンができてからでは遅く
当然、「あ、ここでこの〇〇のパターンができていたな」と
そのパターンが完成してから気づいたのでは、エントリーはできず
それは実際の相場で使いこなせているとは言えないので
必ず、そのパターンの形成途中に気づけるようになること

それが重要であり、その状態に持っていけて
初めて本当の意味で、そのパターンを使いこなせている状態と言えます。

また、それがこの最終ステップの目的でもあります。

先ほどの『その手法を基にした自分の”勝ちパターン”や"負けパターン"を知り理解する』
というステップで見つけ、ストックした「２０種類ほどの伸びていきやすいパターン」全てを
今言ったように、自分の頭の中の引き出しにしっかり保存し
リアルタイムの相場で、それらのパターンを見つけ出す視点
そして、そういったパターンが出現すればいつでもそのパターンを頭の中から引き出し
瞬時にそのパターンを使ってエントリーに繋げていける状態になれば
後は、自然と結果が付いてくるはずです。

つまり、そういった状態になれば紛れもなく"勝ち組"と言えます。

なので、この最終ステップでは
とにかく、今までストックしてきた
「**伸びていきやすいパターン**」や「**伸びていきづらいパターン**」を
文字通り"覚える"ということに注力していってください。

そういったパターンをしっかり覚えることができれば
自然に相場を観る視点も変わってきて、そのパターンの形成途中で
「あ、ここからこういう動きになればこの○○のパターンが完成するな」といった具合に
勝手にそういったパターンを認識できるようになってきます。

これが「チャートを観る"眼"が良くなっている」ということで
逆に言えば、ある程度のパターンを知っているけど実際の相場では上手く見つけられなかったり
そのパターンが完成した後にようやく見つけられる
という状態であれば、それはまだ**"そのパターンを完全に覚えられていない"**というになり
それは、単にそういったパターンを"知っているだけ"で、決して使いこなせてはいない
と言えます。

なので、「自分がそのパターンを本当に覚えているかどうか？」という部分は
そういったところを基準にすると良いです。

また、そういったパターンを覚えていく際に
是非、一つ留意しておいてもらいたいポイントと言いますか
“効率的な覚え方"があるのですが、そういったパターンを覚える際は
「伸びていきづらいパターン」よりも「伸びていきやすいパターン」を
重点的に覚えていくと効率が良いです。

極端な話「伸びていきやすいパターン」のみを覚えてしまい
その「伸びていきやすいパターン」のみに絞り

「伸びていきやすいパターン」が出現した時だけトレードすれば
着実に利益は積み重なっていくので「伸びていきづらいパターン」を
わざわざ覚える必要はないのです。

要は「利益に繋がりやすいであろうパターンだけを切り取って
単純にそこでのみ淡々とトレードしていけば、必然的に利益になり続ける
だから、損失に繋がりやすいパターンは、そもそも必要ないよね」
といった考え方です。

そういった意味で「伸びていきやすいパターン」を重点的に覚えていくと
効率よく成長していける、ということになるのですが
だからといって、もう一方の「伸びていきづらいパターン」を全く覚えない
というのも、それはそれは少々問題が出てきます。

実は「伸びていきづらいパターン」というパターンは
そのパターン自体は、あまり実際のトレードの役に立たないと言いますか
見つけた時「あ、これは伸びていきづらいパターンだからエントリーしない方がいいな」
というのが分かるくらいで、特に目立った効力は発揮しないのですが

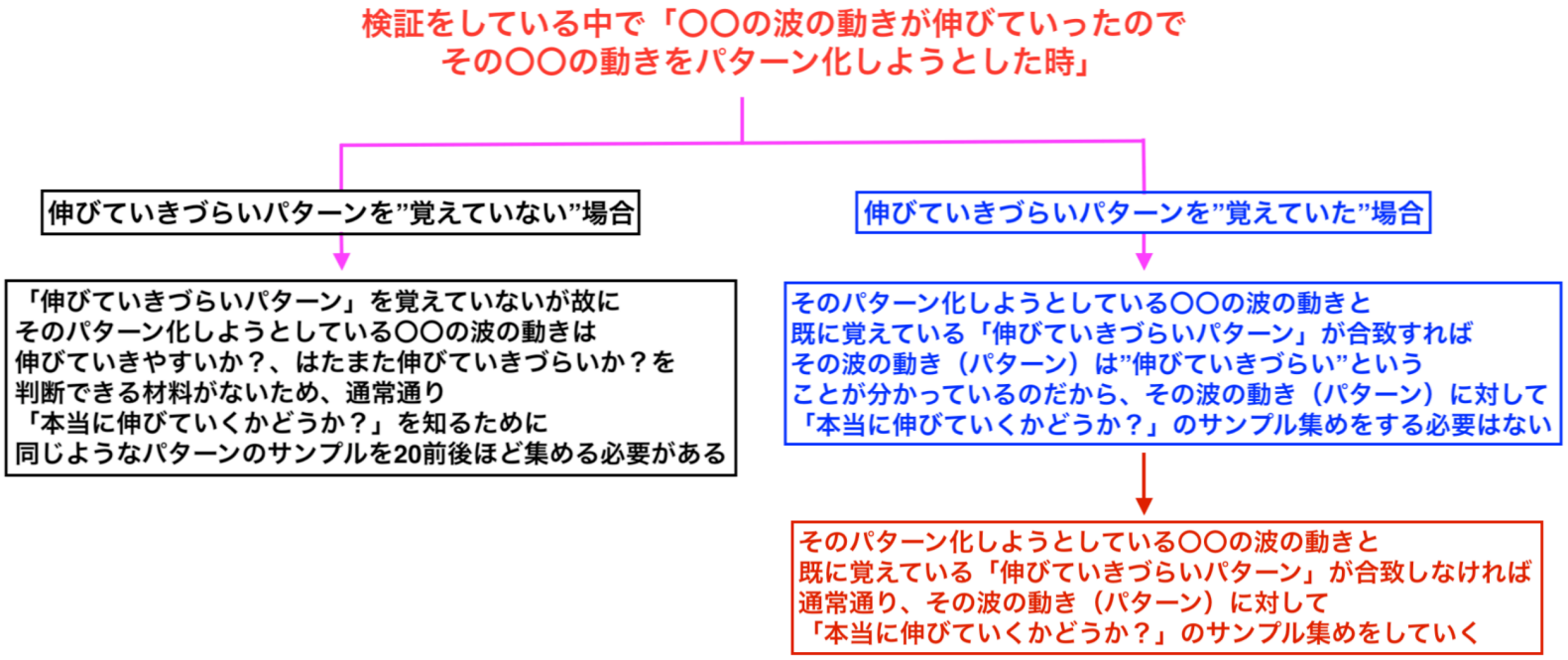
（※ここで重要なのは、そもそも「伸びていきやすいパターン」が出現していない時点で
基本的に”エントリーする"という選択肢はないので「伸びていきづらいパターン」を
見つけたからといってそれによって”損切り"の可能性が減る
つまり損失を避けられるということではありません）

その「伸びていきづらいパターン」もきっちり覚えて
その上で検証をしていくと、その「伸びていきづらいパターン」が
"消去法"の役割をしてくれるのです。

これは、どちらかというと補助的な役割になるのですが
つまり、検証段階で「伸びていきやすいパターン」を探していく中で
例えば、「"A"という伸びていきづらいパターン」を覚えていれば
その「"A"という伸びていきづらいパターン」は、"伸びていきづらい"ということが
既に分かっているからこそ除外され、仮に「"A"という伸びていきづらいパターン」が
出現したとしても、そのパターンを”伸びていきやすい"仮定し
サンプルを集める必要がなくなる、ということです。

要は、**「伸びていきづらいパターン」を覚えておくことで
その分「伸びていきやすいパターン」の種類が消去法で絞られていく**ので
それにより、できる限り無駄を減らして「伸びていきやすいパターン」を探していける
ということです。

まとめると、こんな感じです⬇



検証をしている中で
「この〇〇の波の動きが伸びていったので、その〇〇の動きをパターン化しよう！」とした時
伸びていきづらいパターンを”覚えていない”場合は
「伸びていきづらいパターン」を覚えていないが故に
そのパターン化しようとしている〇〇の波の動きは伸びていきやすいか？
はたまた伸びていきづらいか？が分からず、またそれを判断できる材料もないため
通常通り「その〇〇の波の動き（パターン）は本当に伸びていくかどうか？」を知るために
同じようなパターンのサンプルを20前後ほど集める必要があります。

つまり、ここまで話してきた通りの道順で進み
そのパターンを覚えていく必要がある、ということですね。

対して、伸びていきづらいパターンを”覚えていた”場合
そのパターン化しようとしている〇〇の波の動きと
既に覚えている「伸びていきづらいパターン」が合致すれば
その波の動き（パターン）は”伸びていきづらい”ということが分かっているので
その波の動き（パターン）に対して「本当に伸びていくかどうか？」の
サンプル集めをする必要はない。

つまり、その〇〇のパターンが
「"伸びていきやすいパターン"かもしれない」という可能性を排除できる
ということになります。

ただ、これはあくまでそのパターン化しようとしている○○の波の動きと
既に覚えている「伸びていきづらいパターン」が同じようなパターン
要は、"合致した場合"です。

当然、相場には先ほども言ったように多くの波の動きを作りながら動いているので
その○○の波の動きと、既に覚えている「伸びていきづらいパターン」が
"合致しない場合"というのも多々あります。

なので、そういった場合は
伸びていきづらいパターンを"覚えていない"場合と同様
そのパターン化しようとしている○○の波の動きは伸びていきやすいか？
はたまた伸びていきづらいか？が
分からず、それを判断できる材料もないため
通常通り「その○○の波の動き（パターン）は本当に伸びていくかどうか？」を知るために
同じようなパターンのサンプルを20前後ほど集める必要があります。

そういった感じで「伸びていきづらいパターン」を覚えると
先ほども言ったように「伸びていきやすいパターン」を探していく上で
"消去法"の役割をしてくれるというメリットがあるんですよね。

なので、あくまで重点的に「伸びていきやすいパターン」を覚えていきつつも
それと同時に「伸びていきづらいパターン」も覚えていったほうが良い。

ということになるのです。

また、具体的に「伸びていきやすいパターン」と「伸びていきづらいパターン」を
それぞれ覚えていく際の力の入れ具合といいますか、大体どれくらいの力をどちらに割いて
覚えていくのが良いか？というと

これは、僕の今までの経験上の感覚値にはなるのですが
１００％中、大体７０％ほどの注力具合で「伸びていきやすいパターン」を
残りの３０％ほどを「伸びていきづらいパターン」を覚えるのに注力していくと
いい感じでバランス良く「伸びていきやすいパターン」を中心に
ちょくちょく「伸びていきづらいパターン」も覚えていけます。

なので、是非その「**7 ： 3**」のバランスを意識して
「伸びていきやすいパターン」と「伸びていきづらいパターン」を覚えていってください。

ちなみに、そういった「伸びていきやすいパターン」や「伸びていきづらいパターン」の
具体的な覚え方としては、これは"その人に合ったやり方"が、それぞれにあると思うのですが
やはり、"紙媒体"にして何度も繰り返し見て覚える
というやり方が簡単で、且つシンプルに頭に定着しやすいかなと思います。

１日の中で１時間でもいいので「**これまで集めた、そういったパターンを覚える時間**」を作り
そして、それを習慣化していくことが大きなポイントです。

人間の脳というのは、案外記憶が定着しづらく
例えば、とある無意味な音節を集中して聞いても
20分後には42%を忘れ
1時間後には56%を忘れ
1日後には74%を忘れ
1週間後には77%を忘れ
1ヶ月後には79%を忘れる
と言われています。

知っている方もいらっしゃるかと思いますが
「**エビングハウスの忘却曲線**」と呼ばれるものですね。

たった一回見たり、聴いたりしただけでは
上記のように、もう次の日には殆ど覚えていないのです。

勉強などと同じなのですが、だからこそ復習をし何度も繰り返し覚えるということを
ご飯を食べたり、歯を磨いたり、お風呂に入ったりと"毎日行うこと"と同じように
それを習慣にしていっていただきたいのです。

そういった感じで、何度も見返し覚えていくと必ず長期的に記憶が定着していきます。

そして、ここまで何度か言ってきているように
「２０種類ほどの伸びていきやすいパターン」をしっかりと記憶し、自分の頭の中に定着すれば
この最後のステップも、一先ずクリアと言えます。

つまり、そういった状態まで持っていくことができれば
実際の相場でリアルトレードをして、お金を増やしていける"技術"が備わっている
というようなことが言える状態になるのです。

（ただし、"資金管理"や"メンタル面"などによる影響はここでは考えないものとし
あくまで、ここでは純粋な"トレード技術"そのものの話になります）

とはいえ、先ほども言ったように
この『その自分の”勝ちパターン”や"負けパターン"をしっかりと覚え
使い熟せる状態に持っていく』というステップと
前回の『その手法を基にした自分の"勝ちパターン"や"負けパターン"を知り、理解する』
というステップにゴールはなく「伸びていきやすいパターン」を見つければ見つけるほど
そして、覚えれば覚えるほど、自身の"トレードスキル"というのは
どんどん向上していくので、この最終ステップをクリアしても
是非、より上を目指してこれらの２つのステップを行ったり来たりするような感じで

「"伸びていきやすいパターン"を見つける ➡ そしてそのパターンを覚える」
という作業を繰り返し、自分が使い熟せるパターンを増やしていっていただきたいと思います。

といった感じで、ここまで「２種類の裁量トレードに対する考え方」に分けて
それぞれの「確実に成長するための検証の具体的なやり方」について話してきましたが
大体、検証の具体的なやり方のイメージはできましたか？

今現在「なかなか勝てない」
「検証をしているものの成長している実感がない」
「どのように検証をし、経験を積んでいけば良いのか分からない」
というような方にとっては、特にここまで話してきた内容というのは
重要になることはもちろんのこと「読んで終わり」などでは決してなく
必ず、日々の検証に取り入れていただきたいものになります。

ここまで検証をして成長するためにやるべき具体的なこと
また、その道順などを明確に話してきましたので
まずは、ここまで話してきたことをしっかり取り入れ
そして、それを基にして正しく、且つ確実に自分自身が成長していける検証を
がんがん行っていってください。

そうすれば、本当に誰であっても、必ず成長していくものですし
ここまで話してきた、道順を一つずつ確実にクリアしていき正しく進んでいけば
最終目的地である「FXで勝ち続けていける技術"を習得する」という地点に辿り着くことは
大袈裟でもなんでもなく、本当に"必然"といっても過言ではありません。

僕自身、"検証"というものは"ダイエット"と同じようなものだと常々思っています。

ダイエットというのは、単純に「摂取カロリー ＜ 消費カロリー」という
大原則の方式通りに実行すれば必ず痩せる、人間はそういう構造というのが
既に解明されています。

そういった”痩せる原理"というものが既に分かっているのにも関わらず
毎年のように「新しいダイエット法」や「痩身を目的にした食品やサプリメント」などが
出てきます。

では、"痩せる"という目的を達成するためには
本当にそういった新しいダイエット法や痩身目的の食品、サプリメントというようなものは
必要なのでしょうか？

もちろん、例外はあるものの"痩せる"という目的を達成するために
それらが必要になってくるのか？と言われれば、決して"そうではない"ですよね。

なぜなら、今言った通り
痩せるための基本原理というのは「摂取カロリー ＜ 消費カロリー」という方式になり
その方式を守れば人間は必ず痩せていく、というメカニズムになっているから。

だから、その基本原理である「摂取カロリー ＜ 消費カロリー」という方式を
しっかり守って日々生活していけば
そういった「新しいダイエット法」や「痩身を目的にした食品やサプリメント」などは
そもそも必要ないのです。

どちらかというと、そういった「新しいダイエット法」や
「痩身を目的にした食品やサプリメント」などは
「摂取カロリー ＜ 消費カロリー」を大前提に考えつつ
摂取カロリーを抑えるためのものであったり、消費カロリーを促したりと
要は「摂取カロリー ＜ 消費カロリー」という方式を楽に、且つ長期的に
日常生活の中で取り入れやすくするためのものだったりします。

なので、分かりやすく言うと
痩せるためには、ただシンプルに「摂取カロリー ＜ 消費カロリー」という方式に沿った生活を
"やるだけ"たったそれだけなんです。

そこに対して、誘惑に負けてお菓子をぼりぼり食べて安易に摂取カロリーを増やしたり
今日は怠いからといって、日課のランニングをサボってカロリーを消費しなかったりせず
「摂取カロリー ＜ 消費カロリー」という方式に沿った生活を根気よく続けられなければ
当然、"痩せない"という結果に繋がります。

なので「摂取カロリー ＜ 消費カロリー」という方式に沿った生活を
「やるのか？」「やらないのか？」
これが、本当の意味での痩せるか？痩せないか？の分かれ目になるわけです。

"検証"もそれと同じで
そもそも「勝てるようになるためにやること」というのは、実は決まっているし
（痩せるための基本原理と同じように）
ある程度経験を積んでいくと、皆さん自然に「こうすれば勝てるようになるよな、、、」
というふうに気づき、分かってくるような部分だったりします。

実は、心の中ではそういった部分は薄々感じてはいるんだけど
どうしてもそれが面倒で、ひたすら地味で、どちらかというと苦しい作業になるが故に
それに真摯に向き合いきれず、本気で取り組んでもいないのに
「でも、そんなことをやっても勝てるかどうか分からない」と
そこから目を逸らして逃げる理由を探し、避けて"楽に勝てる方法"をず〜っと探し続けて
結局何年も勝てるようにならない、という事例は本当に多くあります。

早く勝ちたいが故に、"楽に勝てる方法"を探し回ったものの
結局、そういった行為が一番の遠回りになってしまっているのです。

つまり、何が言いたいのか？というと
FXで勝てるようになるためにすること、絶対にしなければならないことは"検証"という作業で
そして、その検証で「確実に成長する具体的なやり方」については
ここまで話してきた通りなので
後は、そこに対して真摯に向き合って、ダイエットと同じようにただその通りに
”やるだけ"です。

何度も言うようですが、この世界はダイエットと同じように
「勝てるようになるためにやること」というのは、決まっていて
（ここまで話してきたこと）
それを「やるか？」「やらないか？」
本当にそれが、勝てるか？勝てないか？の分かれ目になると強く思っています。

だからこそ、皆さんには本気で検証に向き合っていただき
「FXで勝てるようになりたい！」という目標があるのなら
全身全霊で、その目標に向かって突き進んでいっていただきたいのです。

FXで勝てるようになる、ということは決して不可能でも、夢物語などでもなく
しっかりと適切な努力を積んでいけば、誰でも必ず実現可能なものなので
是非、ここまで話した通りに、しっかりとその道順に沿った検証を
がんがん行っていってくださいね。

さいごに

というわけで、いよいよ本書も最後になりますが
最後に検証を行う際「ここだけには注意してもらいたい」という
注意点について、少しお話しさせていただきます。

ここまで「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
というトレードの仕方と
「その手法が機能する相場のみでトレードする」というトレードの仕方
それぞれの裁量トレードの仕方に対して、「確実に成長するための検証のやり方」を
話してきましたが、これらどちらのトレードの仕方に対しても
検証する際に絶対に注意していただきたいポイントがあります。

それが、**『そのトレードの仕方を常に独立させて考え
検証する際、お互いのトレードの仕方を混同させてはダメ』**
という部分です。

これはどういうことかというと
つまり「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
というトレードの仕方、考え方で勝てるようになるために検証しているのに
その検証している最中に「その手法が機能する相場のみでトレードする」方の
検証の仕方、考え方などに引っ張られては絶対にダメということです。

もちろん、逆も然りで「その手法が機能する相場のみでトレードする」
というトレードの仕方、考え方で勝てるようになるために検証しているのに
もう一方の「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」方の
検証の仕方、考え方などに引っ張られるのもNGです。

検証をしていると、時にそういった感じで
無意識のうちにもう一方のトレードの仕方、考え方に対しての検証の仕方が
徐々に混じってきてしまうことがあります。

こういった、もう一方のトレードの仕方、考え方などが混じった状態で検証をしても
言わずもがな、あまり良質な経験を積めず、どちらの検証方法に対しても
かなり中途半端になってしまい、結果的に成長が遅くなってしまう原因になるので
「その時の相場の動きに臨機応変に合わせて柔軟にトレードする」
というトレードの仕方、考え方で勝ちを目指すなら、しっかりとその道に沿った検証の仕方を

「その手法が機能する相場のみでトレードする」というトレードの仕方、考え方で
勝ちを目指すなら、こちらも同じくしっかりとその道に沿った検証の仕方を

常に意識しつつ、決してその道を外れたり、もう一方の検証の仕方を持ち込んだりすることなく
一直線に進んでいかなければなりません。

その方が間違いなく、”勝ち組"までの近道になるので
是非、こういった部分には注意して検証作業を行っていただきたいと思います。

というわけで、ここまで長々と話してきましたが
検証の具体的な仕方、考え方などについて、大体理解いただけましたでしょうか？

“検証”とは、本当に飽きるほどの単純作業の繰り返しで
全く持って、なんの面白みもありませんが、ただそれとは裏腹に
確実にトレード技術の向上に役立つものであり
本当に、本書の通りに沿ってしっかりと検証を続けていっていただくと
間違いなく、自分自身で成長が実感できると共に
トレード技術というのも、確実に右肩上がりに上がっていくものなので
是非、検証の際は常に本書に沿った検証の仕方、考え方などを持って
一点集中で検証に励んでいっていただきたいと思います。

勝てていないうちだからこそ
"検証”にこそ、どんどん時間を割いていきましょう。

最後まで拝読いただきありがとうございました。

これを読んだ皆様に、多大な利益がありますように。

箸・福沢
（2020年1月19日）

利用規約

【ブログ】➡ http://fukuzawa-fx.com

【福沢の完全無料メール講座】➡ http://fukuzawa-manual.com/ad/mail-kouza

【LINE@】➡ https://line.me/R/ti/p/%40oto5468d
「ID → @oto5468d」

【Twitter】 ➡ https://twitter.com/fukuzawa00

【Facebook】 ➡ https://www.facebook.com/fukuzawa00

【ラインの指南書】 ➡ ラインの指南書はこちら
（こちらも無料で閲覧、ダウンロードいただけます）

福沢が実際にトレードで使っている【５つの奥義】を
“無料"でプレゼントしています。
詳細はこちら ➡ http://fukuzawa-manual.com/ad/42-2

僕自身の”リアルトレード動画”や"動画解説"などは
こちら ➡ 福沢 Youtube

お問い合わせ、ご質問等はこちら ➡ fukuzawa0022@gmail.com